

千葉県袖ヶ浦市

## 打越岱遺跡（4）

—上水道加圧ポンプ場の建設に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2018

袖ヶ浦市教育委員会

千葉県袖ヶ浦市

うちこしだい  
打越岱遺跡（4）

—上水道加圧ポンプ場の建設に伴う埋蔵文化財調査報告書—

2018

袖ヶ浦市教育委員会

## 序 文

袖ヶ浦市は、千葉県中央部の東京湾東岸沿いに位置します。市内には小櫃川によって形成されたのどかな田園風景をはじめとした豊かな自然環境が多く残り、近年は東京湾アクアラインなどの利便性の高い交通網に恵まれ、大都市に近い立地を生かしたまちづくりが進んでいます。

これに伴い、市内では大小さまざまな規模の開発が行われています。開発の進展に伴い、地中に保存することが難しい遺跡については、事前に発掘調査を実施し、記録保存という措置をとることで、この地に先人たちが生活した痕跡を後世に残しています。

この度、上水道加圧ポンプ場の建設に伴い、袖ヶ浦市上泉に所在する打越岱遺跡の発掘調査を実施しました。調査の結果、縄文時代早期の土器や礫の他に、縄文時代早期中葉の土偶が発見されました。同時期の土偶がほぼ完全な状態で発見されることは大変珍しく、全国的に見ても重要な発見例として注目されています。

これらの発掘調査の記録を取りまとめた本書が、学術資料としてだけではなく、郷土の歴史に対する興味・関心を深めるための資料として、多くの方々に広く活用していただければ幸いです。

最後になりましたが、千葉県教育庁教育振興部文化財課の方々には、発掘調査の実施から本書の刊行に至るまでご指導を頂き、厚くお礼申し上げます。また、関係者の皆様には、ご理解とご協力を頂きましたことに対しまして心から感謝申し上げます。

平成30年3月

袖ヶ浦市教育委員会  
教育長 御園 朋夫



1. 縄文時代早期中葉土偶（表面）



2. 縄文時代早期中葉土偶（裏面）

## 例　　言

1. 本書は、千葉県袖ヶ浦市上泉字打越 1,270 番地 7 に所在する打越岱遺跡（遺跡コード：SG 011）第4次調査の発掘調査報告書である。
2. 本調査は、袖ヶ浦市が施工する上水道加圧ポンプ場の建設に先立つ調査として行われ、千葉県教育委員会の指導のもと、袖ヶ浦市教育委員会が実施した。
3. 調査面積及び発掘・整理作業期間、担当者は下記のとおりである。

調査面積：630 m<sup>2</sup>

発掘作業

期　間：平成 26 年 4 月 21 日～同年 6 月 2 日

担当者：諸墨知義

整理作業

期　間：平成 26 年 6 月 3 日～平成 30 年 2 月 27 日

担当者：大河原務

4. 本書の執筆は大河原務が担当した。

5. 本書で使用した地形図は下記のとおりである。

第1図 国土地理院発行 1/25,000 地形図 「姉崎」「上総横田」

第2図 袖ヶ浦市発行 1/2,500 地形図 「Na 27」

6. 遺構番号は、過去調査における遺構番号に引き続き付与した。

7. 今回の調査に伴う遺物・記録類等は、袖ヶ浦市教育委員会で保管する予定である。

8. 発掘から報告書刊行に至るまで、千葉県教育委員会をはじめ、下記の方々に多大なるご指導・ご協力をいただいた。記して謝意を表したい。（敬称略・五十音順）

井上　賢・大谷弘幸・岡本東三・原田昌幸・安井健一

## 凡　　例

1. 基準点測量は世界測地IX系を用いた。方位は座標北を表している。
2. 図の縮尺は、遺構・遺物ともに各図に明記した。
3. 遺構図中のドットは遺物の出土位置を示し、その内容は各図の凡例のとおりである。
4. 遺構の「F P」は炉穴、「T P」は陷穴、「S K」は土坑、「P」はビット、遺構図中の「K」は擾乱を表している。
5. 本遺跡の調査は、数次にわたり実施されているため、括弧付けの数字で調査次数を示している。  
第4次調査 → (4)

## 目次

序文	3. 縄文時代 .....	11
例言・凡例	(1) 炉穴 .....	11
I 序章 .....	(2) 陶窯 .....	15
1. 調査に至る経緯 .....	(3) 土坑 .....	16
2. 調査組織 .....	(4) ピット .....	21
3. 遺跡の立地と周辺の環境 .....	(5) 棚構外出土遺物 .....	24
4. 調査及び整理作業の方法 .....	A. 土器 .....	24
II 検出された棚構と遺物 .....	B. 土偶 .....	26
1. 調査の概要 .....	C. 繩 .....	34
2. 旧石器時代 .....	D. 石器 .....	34
	III 総括 .....	41

## 挿図目次

第1図 遺跡位置図及び周辺遺跡分布図	第2図 調査区位置図及び周辺地形図
第3図 調査区全体図	第4図 調査区北西部
第5図 調査区北東部	第6図 調査区南西部
第7図 調査区南東部	第8図 旧石器時代調査トレンチ断面図、出土石器
第9図 縄文時代炉穴、出土土器①	第10図 縄文時代炉穴、出土土器②
第11図 縄文時代陶窯、出土土器・石器	第12図 縄文時代土坑、出土土器①
第13図 縄文時代土坑、出土土器②	第14図 縄文時代土坑、出土土器③
第15図 縄文土器①	第16図 縄文土器②
第17図 縄文土器③	第18図 縄文土器④
第19図 縄文土器出土状況（第I群）	第20図 縄文土器出土状況（第II群）
第21図 縄文土器出土状況（第III群）	第22図 土偶
第23図 繩出土状況	第24図 石器出土状況
第25図 石器	第26図 東上泉遺跡出土土偶

## 表目次

第1表 ピット観察表①	第2表 ピット観察表②
第3表 ピット観察表③	第4表 土器重量表（小グリッド別）①
第5表 土器重量表（小グリッド別）②	第6表 土器重量表（小グリッド別）③

## 原色図版目次

巻頭カラー図版 縄文時代早期中葉土偶

## 白黒図版目次

図版1 調査前全景・検出遺構①	図版2 検出遺構②
図版3 検出遺構③	図版4 検出遺構④
図版5 出土遺物①	図版6 出土遺物②
図版7 出土遺物③	図版8 出土遺物④
図版9 出土遺物⑤	図版10 出土遺物⑥

# I 序章

## 1. 調査に至る経緯

袖ヶ浦市上泉字打越1,270番地7における上水道加圧ポンプ場の建設計画に伴い、袖ヶ浦市長 出口清より平成25年7月12日付けで埋蔵文化財についての協議があった。対象地は周知の埋蔵文化財包蔵地である打越岱遺跡であるため、その旨を平成25年7月18日付け袖教生1089号において回答し、事業に先立ち、埋蔵文化財発掘の通知の提出を依頼した。埋蔵文化財発掘の通知は袖ヶ浦市長 出口清より平成26年4月1日付けで提出された。現地踏査及び過去に周辺で実施された発掘調査成果をもとに協議を行った結果、記録保存の措置を講ずるとの結論に達し、対象面積630m<sup>2</sup>の確認・本調査を実施することになった。

発掘・整理作業は袖ヶ浦市教育委員会が行った。

## 2. 調査組織

調査主体 袖ヶ浦市教育委員会

平成26年(発掘作業)

教育長	川島 恒	教育部長	藤山 弘
教育部次長	鈴木 和博	教育部参事兼生涯学習課長	井口 崇
生涯学習課文化振興班			
副課長兼文化振興班長	西原 崇浩	副主査	諸黒 知義(担当)
副主査	田中 大介	副主査	前田 雅之

平成29年(整理作業)

教育長	御園 朋夫	教育部長	石井 俊一
教育部次長	高橋 広幸	教育部参事兼生涯学習課長	小阪 潤一郎
生涯学習課文化振興班			
副課長兼文化振興班長	稲葉 理恵	主査	田中 大介
副主査	箕島 正広	副主査	大河原 務(担当)
学芸員	鎌田 望里		

## 3. 遺跡の立地と周辺の環境

本遺跡が所在する袖ヶ浦市の地形は、北部に広がる台地と小櫃川の流れを受け発達した南部の沖積低地と大きく分けられる。北部の台地は下総台地の南端に位置し、北を養老川、南を小櫃川の開析により分断された袖ヶ浦市域の台地は袖ヶ浦台地と呼ばれる。

本遺跡は小櫃川の支流である松川流域右岸の標高約68mの台地上に立地する。本遺跡周辺は袖ヶ浦台地と沖積低地の境界付近に当たり、多くの遺跡が立地する。本項では、本調査において検出された旧石器時代、縄文時代早期の周辺遺跡について取り上げる。

旧石器時代の遺跡は、袖ヶ浦台地北部に位置する美生遺跡群や百々目木B遺跡等、袖ヶ浦台地南東部に位置する永吉台遺跡群や文脇遺跡等が挙げられる。美生遺跡群ではソフトローム層から第2黒色帯間、百々目木B遺跡ではソフトローム層からハードローム層間、永吉台遺跡群ではソフトローム層から第1黒色帯間に

において旧石器集中地点が確認されている。また、文駒遺跡では第2黒色帯下部において旧石器集中地点が確認されており、県内においても古い段階の石器群が出土している。本市内における旧石器時代の遺跡は、袖ヶ浦台地の縁辺部や、台地北部の藏波川・境川等の中規模河川、台地南部の小櫃川の支流である松川によって開拓された谷頭の緩斜面に多く立地する。

縄文時代早期の遺跡は、市内北部の条痕文期の炉穴や土器が多数見つかった中六遺跡や鶴ガ島式期の竪穴住居が検出された豆作台遺跡、市内南部の早期前葉から後葉の土器が出土する滝ノ口向台遺跡等、市内全域から多数見つかっている。本遺跡周辺では、本遺跡の北約1kmに位置する西萩原遺跡からは条痕文期の炉穴・陥穴が検出し、南東約1kmに位置する上用瀬遺跡からは竪穴住居、寒沢遺跡からは炉穴が検出されている。また、南約1.5kmに位置する東上泉遺跡からは条痕文期の炉穴や陥穴が検出され、沈線文期から条痕文期にかけての土器が出土している。

#### 4. 調査及び整理作業の方法

本調査は、世界測地系に基づく基準点測量による方眼杭を使用し調査を実施した。調査に当たっては、調査区全域を20m四方のグリッドで6分割したものを大グリッドとし、東西をG・Hに2分割、南北を5～7に3分割し、北西隅をG5とした。さらに大グリッドを2m四方のグリッドで100分割したものを小グリッドとし、北西隅から00、01、02…、北東隅を09、南西隅を90、南東隅を99と呼称した。グリッドの起点(G5-00の北西隅)は、X=-64,990、Y=19,420にある。なお、本調査において設定した大グリッドは、打越岱遺跡(1)(2)の大グリッド割とは一致しない。

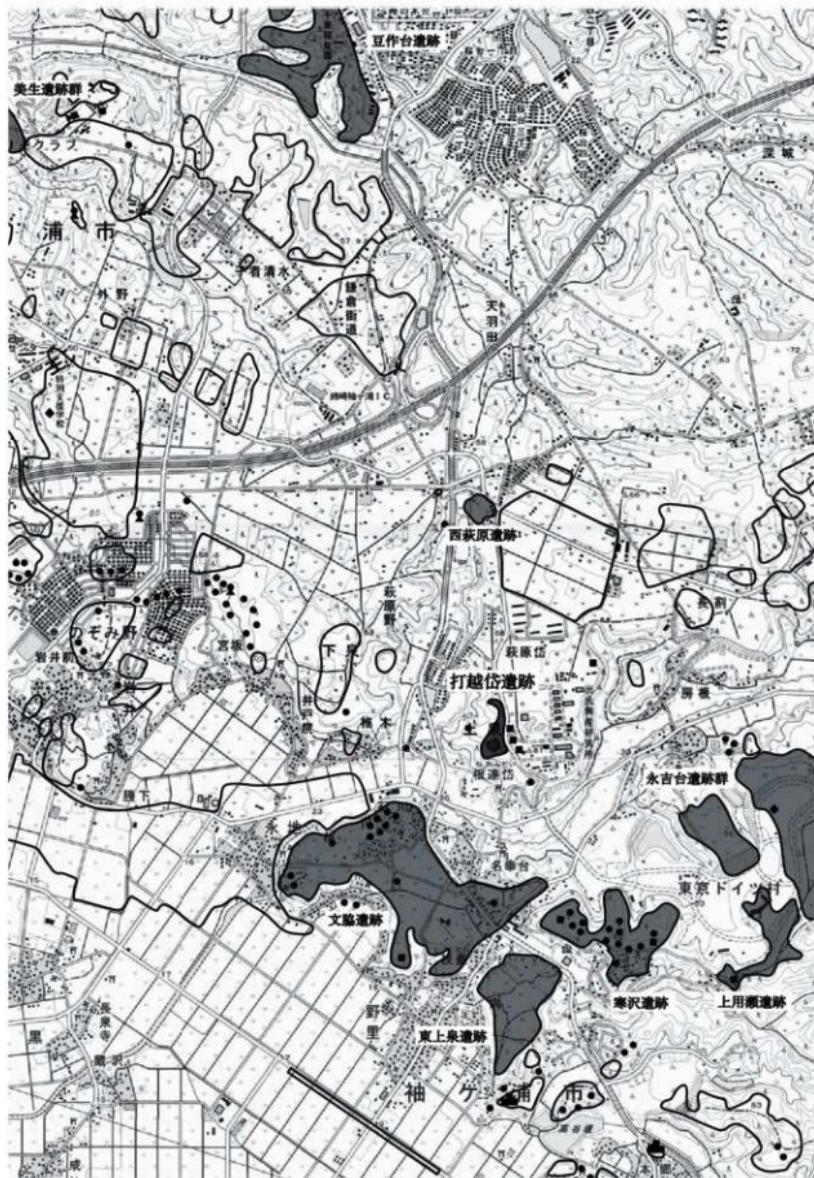
発掘作業は、廃土処理の関係から調査区南部の調査・埋戻し後、調査区北部の調査を実施した。表土掘削はバックホウで行い、ソフトローム漸移層からソフトローム層上層までは人力で掘削した。遺構確認面はソフトローム層上層とした。出土遺物は出土位置を極力記録した。

遺構名称は過去調査で使用された遺構番号を引き継ぎ、3桁の番号を使用した。発掘作業時に使用した遺構番号は過去調査時の番号を引き継いでおらず、欠番や複数の遺構に対して同一の遺構名が使用されるなどの不備が多数見つかったことから、整理作業時に新たに遺構番号を付与した。旧遺構名称(発掘作業時使用名称及び遺物注記名称)は「II 検出された遺構と遺物」の項目で明記した。

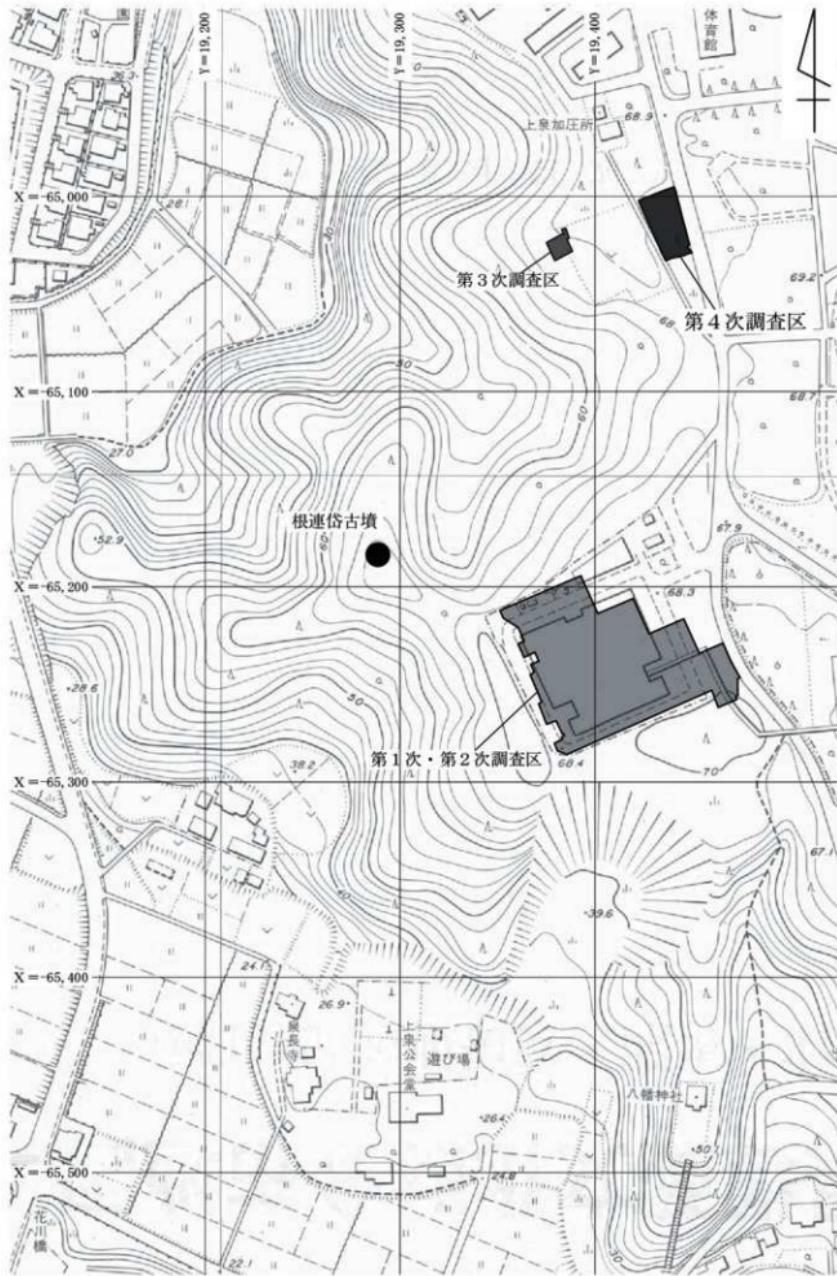
出土位置を記録した遺物は、遺構・グリッドごとに4桁の数字を付与して取り上げた。

遺構実測図は平板測量で作成した。また、遺構実測図の縮尺は20分の1を基本とし、遺構の種類や実測図の種類に応じて縮尺を変えて作成した。写真撮影は中型カメラをメインカメラとし、フィルムは6×7判を使用した。35mm小型カメラはサブカメラとし、フィルムは白黒とカラーリバーサルを使用した。また、デジタルカメラも補助的に使用した。

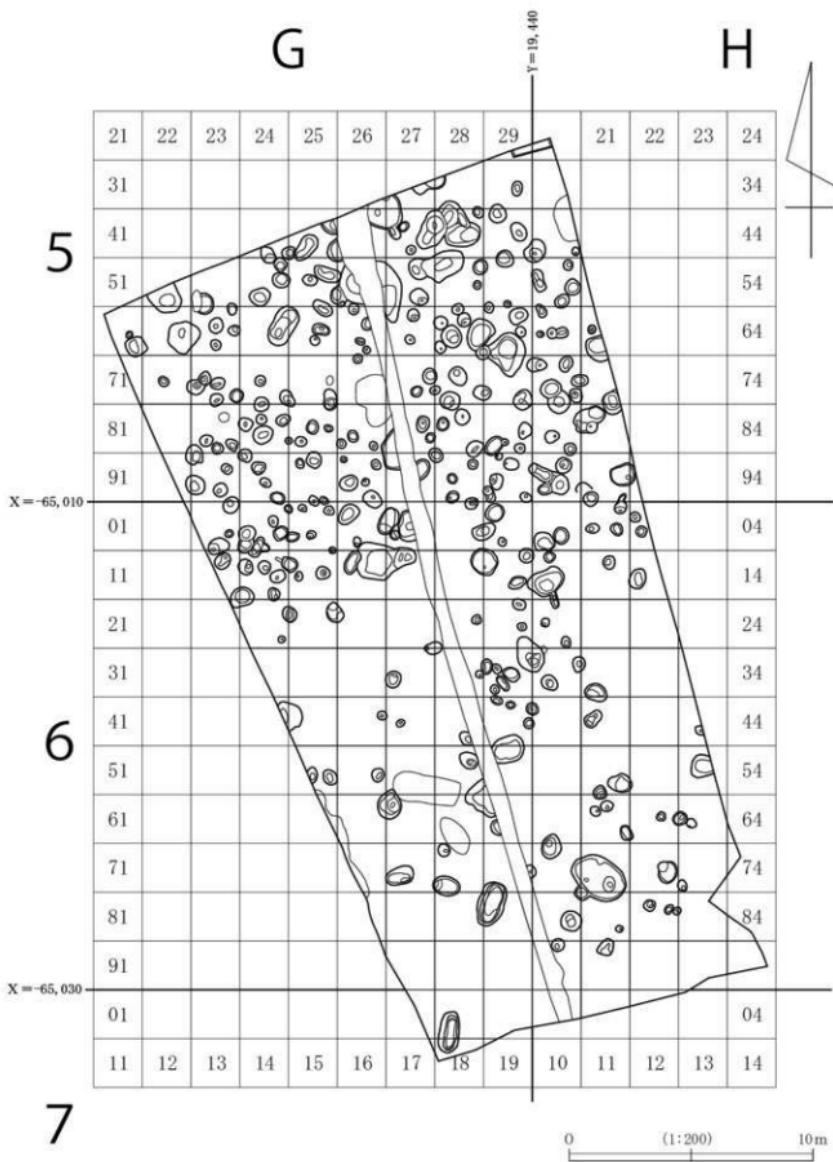
本書に掲載した実測図等は、アドビ社製イラストレーター及びフォトショップを使用し、デジタル化した。写真は、発掘作業時の写真については、主に6×7判及び35mm判リバーサルフィルムをスキャンして使用し、一部デジタルカメラで撮影した写真を使用した。遺物写真はデジタルカメラで撮影したものを使用した。編集はアドビ社製インデザインを使用した。



第1図 遺跡位置図及び周辺遺跡分布図 (1 : 25,000)

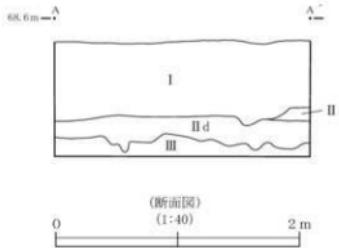


第2図 調査区位置図及び周辺地形図 (1 : 2,500)



第3図 調査区全体図

G 5-53 断面図

**G 5**

52

X = -65,006

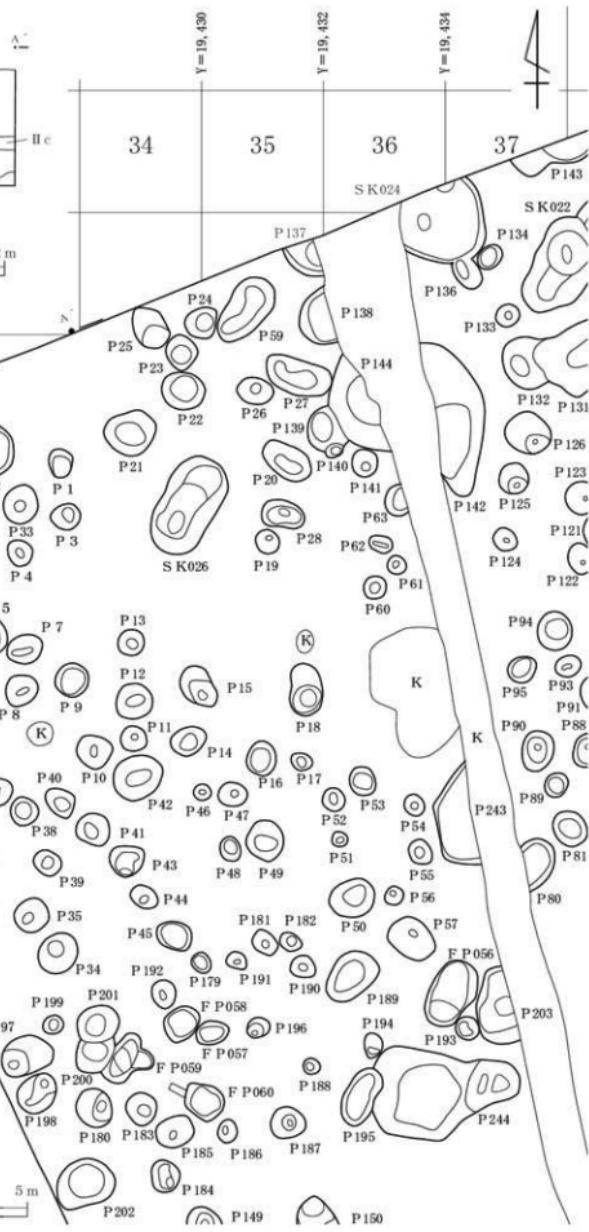
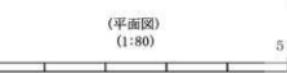
X = -65,008

X = -65,010

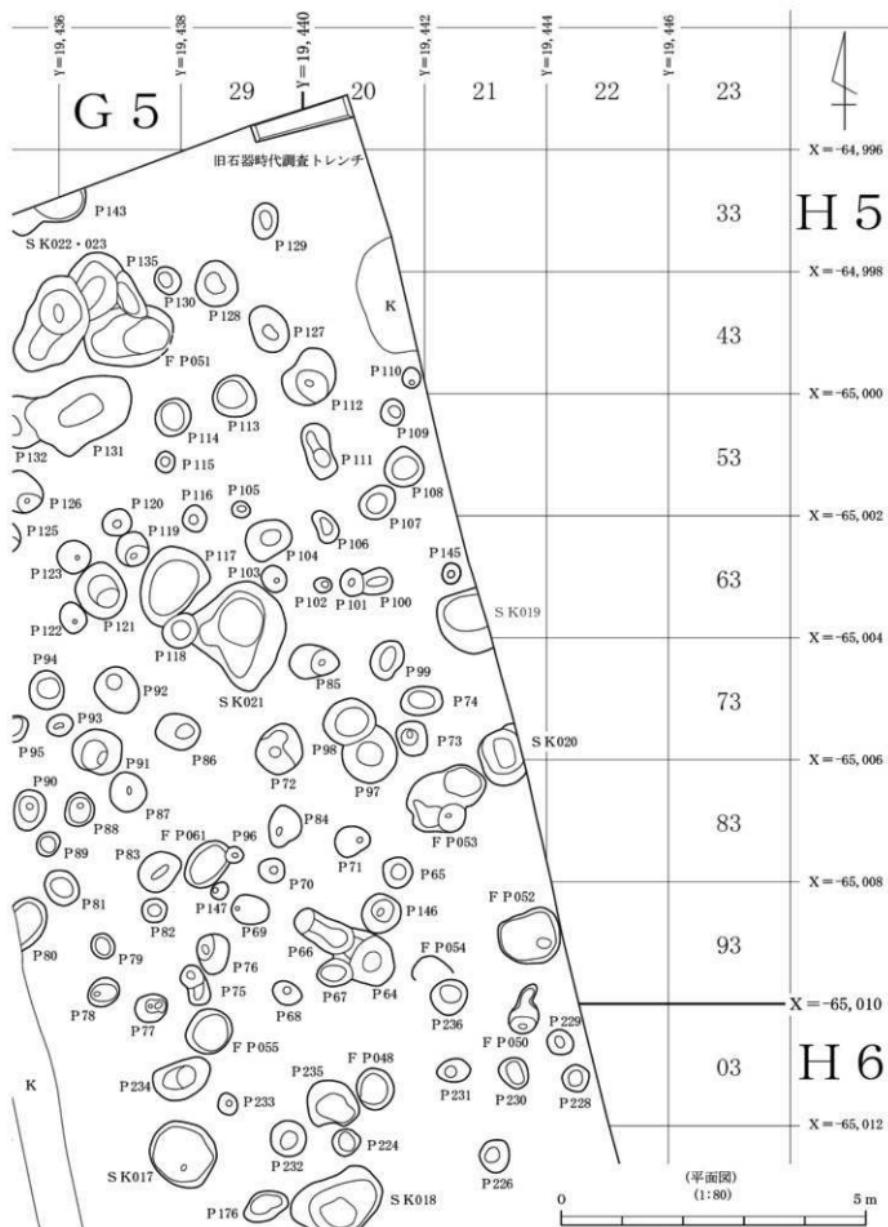
**G 6**

02

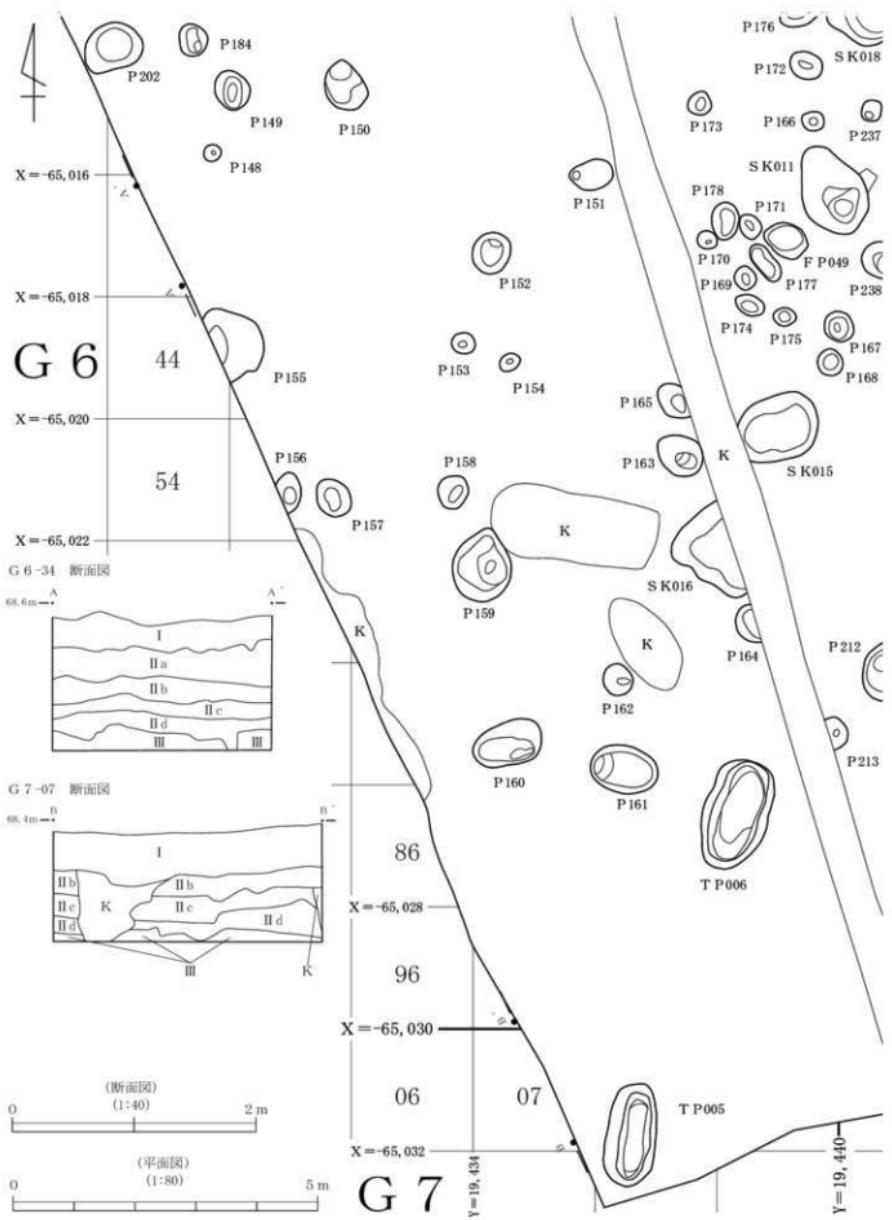
X = -65,012



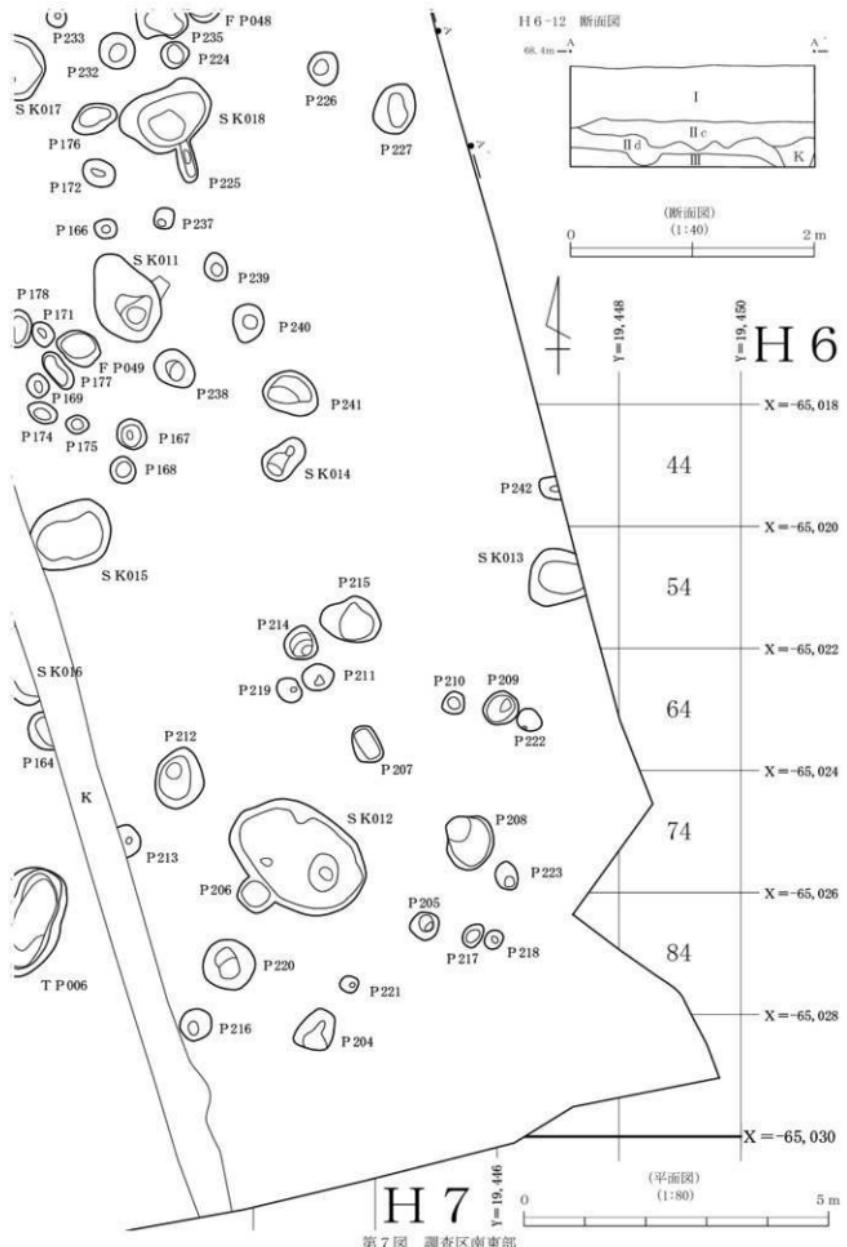
第4図 調査区北西部



第5図 調査区北東部



第6図 調査区南西部



第7図 調査区南東部

## II 検出された遺構と遺物

### 1. 調査の概要

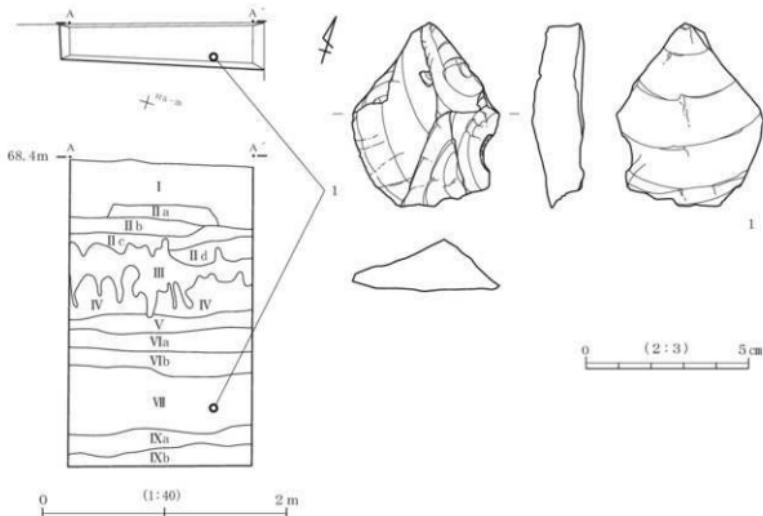
今回の調査区は、標高約 68 m の台地平坦部にあたり、調査区西側は緩斜面にあたる。今回の調査で検出された遺構は、縄文時代早期の炉穴 14 基、陥穴 2 基、土坑 16 基、ピット 244 基である。出土遺物を伴わないものも多く含むが、調査区全域から縄文時代早期を主体とする遺物包含層が検出され、他時代の遺物がほとんど出土しないことから、すべて同時期の遺構と判断した。また、ピットに関しては樹木等による搅乱も多数含む可能性も否めないが、判断ができないため、すべて遺構として報告する。なお、遺構出土土器は、「3. 縄文時代（5）遺構外出土遺物 A. 土器」の区分で分類した。

基本層序は I 層：現表土層（褐色）、II a 層：暗褐色土層、II b 層：新期テフラ層、II c 層：暗褐色土層、II d 層：ソフトローム漸移層、III 層：ソフトローム層、IV 層：ハードローム層、V 層：第 1 黒色帶、VI a 層：始良丹沢火山灰層、VI b 層：黄褐色土層、VII 層：第 2 黒色帶上部層、IX a 層：第 2 黒色帶下部上層、IX b 層：第 2 黒色帶間層である。II b 層は調査区北部・南部においては、良好に確認できるが、調査区中央部においては疎らにしか確認することができない。調査前に実施した樹木の伐根の影響を受けたものと推測される。

### 2. 旧石器時代（第 8 図）

旧石器時代は、調査区北東部の G 5 - 29 • H 5 - 20 において、1.7 m × 0.3 m の範囲で調査を行った。調査は第 2 黒色帶下層確認面まで行い、二次加工を有する剥片 1 点が出土した。

出土した二次加工を有する剥片は、珪質頁岩の剥片を素材とし、最大長 5.62 cm、最大幅 4.47 cm、最大厚 1.60 cm、重量 31.86 g である。右侧面中央部に細かな剥離痕が認められる。出土位置は標高 66.335 m の VII 層：第 2 黒色帶上部層である。



第 8 図 旧石器時代調査トレンチ断面図、出土石器

### 3. 繩文時代

#### (1) 炉穴 (第9・10図)

F P 048 (旧: S F 001)

H 6-00 グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。燃焼部のみの検出であり、足場の存在は不明確である。長軸は 69 cm、短軸は 63 cm、深さは 14 cm である。火床は不定形を呈する。遺物は、縄文土器 78.90 g (第II群 77.89 g、第X群 1.01 g)、礫 8.90 g (チャート 8.90 g) が出土した。1 は胴部片で、外面に横位の条痕が施される。胎土に纖維は含まない。

F P 049 (旧: S F 002)

G 6-39 グリッドに位置する。平面形は梢円形を呈する。燃焼部のみの検出であり、足場の存在は不明確である。長軸は 75 cm、短軸は 53 cm、深さは 14 cm である。底面にまとまった焼土が確認できるが、明確な火床は確認できなかった。遺物は、石器 1 点 0.37 g (剥片 1 点 0.37 g) が出土した。

F P 050 (旧: S F 003)

H 6-01 グリッドを中心に位置する。平面形は長梢円形を呈し、主軸は N-15° - E である。長軸は 83 cm、短軸は 48 cm、深さは 19 cm であり、燃焼部の長軸は 48 cm、短軸は 42 cm である。足場は比較的平坦であり、燃焼部に向かい緩傾斜する。底面にまとまった焼土が確認できるが、明確な火床は確認できなかった。遺物は出土しなかった。

F P 051 (旧: S F 004)

G 5-48 グリッドに位置する。平面形は長梢円形を呈し、主軸は N-81° - E である。長軸は 148 cm、深さは 28 cm であり、燃焼部の長軸は 62 cm、短軸は 51 cm である。SK 022・023、P 135 と重複するため短軸長は不明である。足場は比較的平坦であり、燃焼部に向かい緩傾斜する。火床は長梢円形を呈する。火床の上層にも強く焼きしまる層 (4 層) が存在することから、ある程度堆積が進んだ後に再度利用された可能性も考えられる。遺物は、縄文土器 426.52 g (第II群 385.92 g、第X群 40.60 g)、礫 441.52 g (チャート 196.47 g、流紋岩 91.94 g、砂岩 145.72 g、凝灰岩 7.39 g) が出土した。1 は口縁部片、2 ~ 4 は胴部片である。1 の口縁部は角頭状を呈する。1 ~ 4 は太い沈線が施され、1・2 は斜位、3 は縦位、4 は横位に施される。

F P 052 (旧: S F 005)

H 5-91 グリッドを中心に位置する。平面形は長梢円形を呈し、主軸は N-79° - E である。長軸は 102 cm、短軸は 89 cm、深さは 19 cm である。底面から焼土がまとまって検出されることから炉穴と判断したが、明確な燃焼部・足場・火床は確認できなかった。遺物は、縄文土器 89.07 g (第II群 89.07 g)、礫 260.88 g (チャート 69.32 g、砂岩 180.00 g、玉髓 11.56 g) が出土した。1 は胴部片で、太い沈線が斜位に施される。2 は無文であり、底部付近と思われる。胎土に纖維は含まない。

F P 053 (旧: S F 006)

H 5-81 グリッドを中心に位置する。平面形は不定形を呈し、主軸は N-59° - E である。長軸は 138 cm、短軸は 102 cm、深さは 5 cm である。底面から焼土がまとまって検出されることから炉穴と判断したが、明確な燃焼部・足場・火床は確認できなかった。南側の崖みは後世の搅乱の可能性が高い。遺物は、縄文土器 173.70 g (第II群 166.65 g、第X群 7.05 g)、礫 27.27 g (チャート 27.27 g) が出土した。1 は胴部片で、4 本の平行沈線を基本として、幾何学文を構成する。2 は無文であり、底部付近と思われる。胎土に纖維は含まない。

F P 054 (旧: S F 007)

H 5-91 グリッドを中心に位置する。焼土検出時に遺構と判断したため、遺構の大部分は掘削してしまい、燃焼部の一部が残るのみである。底面に明確な火床は確認できなかった。遺物は、縄文土器 121.43 g (第II群 121.06 g、第X群 0.37 g)、石器 1 点 9.41 g (剥片 1 点 9.41 g)、礫 28.96 g (砂岩 28.96 g) が

出土した。1は胴部片で、外面に横位の擦痕を残す。内面は縦位のナデ調整が施される。胎土に小繊を多く含む。

F P 055 (旧 : S F 008)

G 6-09 グリッドに位置する。平面形は円形を呈する。燃焼部のみの検出であり、足場の存在は不明確である。長軸は75 cm、短軸は68 cm、深さは23 cmである。底面にまとまった焼土が確認できるが、明確な火床は確認できなかった。遺物は、縄文土器 68.26 g (第II群 67.61 g、第X群 0.65 g)、石器1点 0.32 g (二次加工を有する剥片1点 0.32 g)、礫 19.15 g (砂岩 19.15 g) が出土した。

F P 056 (旧 : S F 009)

G 6-06 グリッドを中心位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸はN-26° - Eである。長軸は114 cm、短軸は73 cm、深さは18 cmである。形状から南側の窪みを燃焼部、北側の平坦面を足場と推測するが、焼土は燃焼部からは検出されず、燃焼部から足場にかけての緩斜面から検出された。燃焼部から掻き出されたものであろうか。焼土同様に、燃焼部から明確な火床は確認できなかった。遺物は、縄文土器 10.63 g (第II群 8.50 g、第X群 2.13 g)、石器1点 1.03 g (剥片1点 1.03 g)、礫 86.31 g (チャート 13.77 g、流紋岩 24.86 g、砂岩 6.45 g、ホルンフェルス 41.23 g) が出土した。1は胴部片で、太い沈線が横位に施される。

F P 057 (旧 : S F 010)

G 6-05 グリッドを中心位置する。平面形は梢円形を呈する。燃焼部のみの検出であり、足場の存在は不明確である。長軸は54 cm、短軸は39 cm、深さは10 cmである。覆土から大量の焼土が検出されるが、明確な火床は確認できなかった。遺物は、縄文土器 6.72 g (第II群 6.72 g)、礫 95.77 g (砂岩 95.77 g) が出土した。

F P 058 (旧 : S F 011)

G 6-04 グリッドを中心位置する。平面形は梢円形を呈する。燃焼部のみの検出であり、足場の存在は不明確である。長軸は62 cm、短軸は51 cm、深さは7 cmである。覆土全体から焼土や炭化物が検出されるが、明確な火床は確認できなかった。遺物は出土しなかった。

F P 059 (旧 : S F 012)

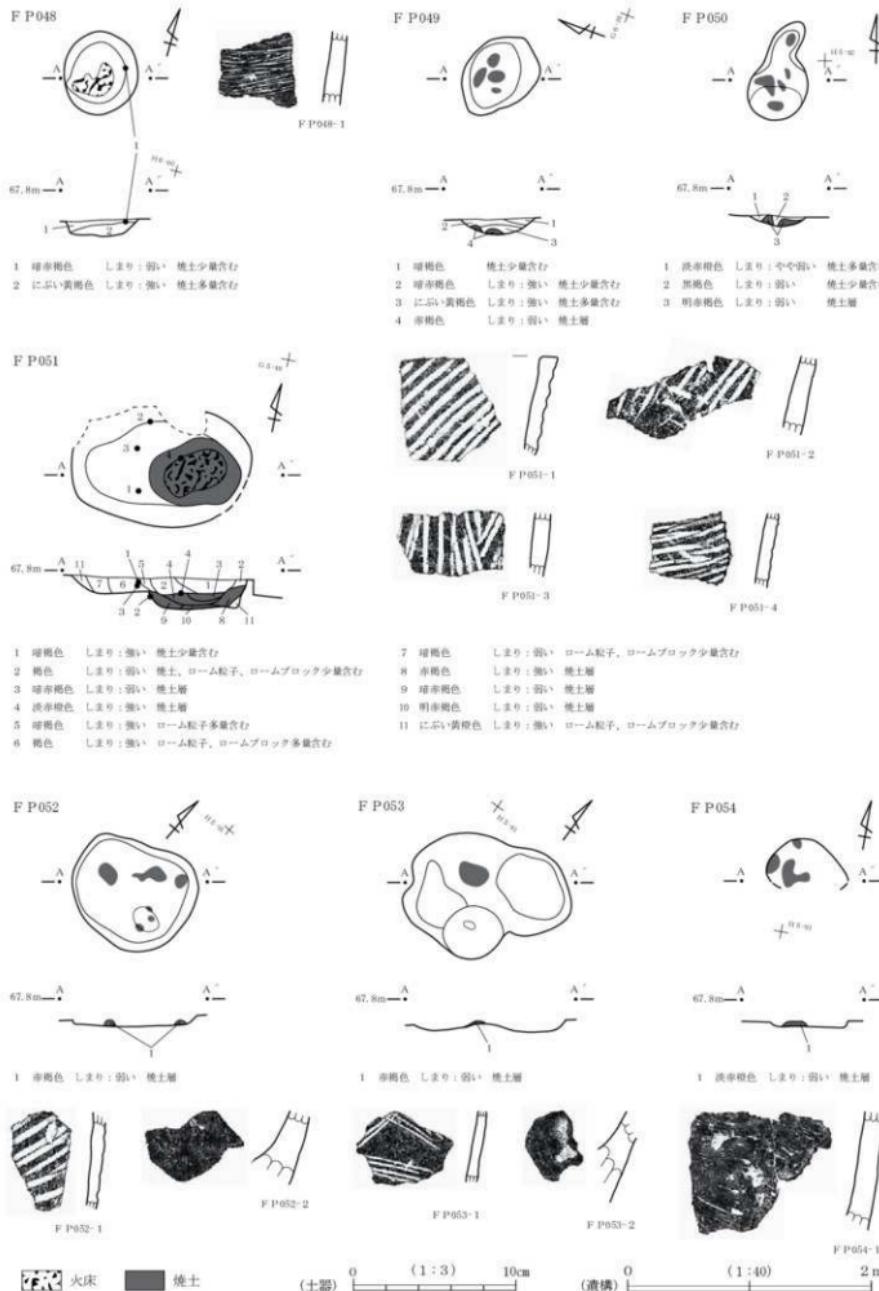
G 6-04 グリッドを中心位置する。平面形は不定形を呈する。長軸は88 cm、深さは26 cmである。P 200と重複するため短軸長は不明である。中心部が最も窪んでいるため、中心が燃焼部で、3方向に足場が形成された可能性も考えられるが、明確な火床やまとまった焼土は検出されなかった。遺物は、縄文土器 166.35 g (第II群 166.35 g)、礫 292.76 g (チャート 120.24 g、砂岩 172.52 g) が出土した。1は口縁部片、2~4は胴部片である。1の口唇部は外削ぎ状を呈し、太い沈線が横位に施される。2は細い沈線が矢羽状に施される。3は帯状格子目文が横位、帯状斜線文が斜位に施される。4は細い沈線が横位、斜位に施される。

F P 060 (旧 : S F 013)

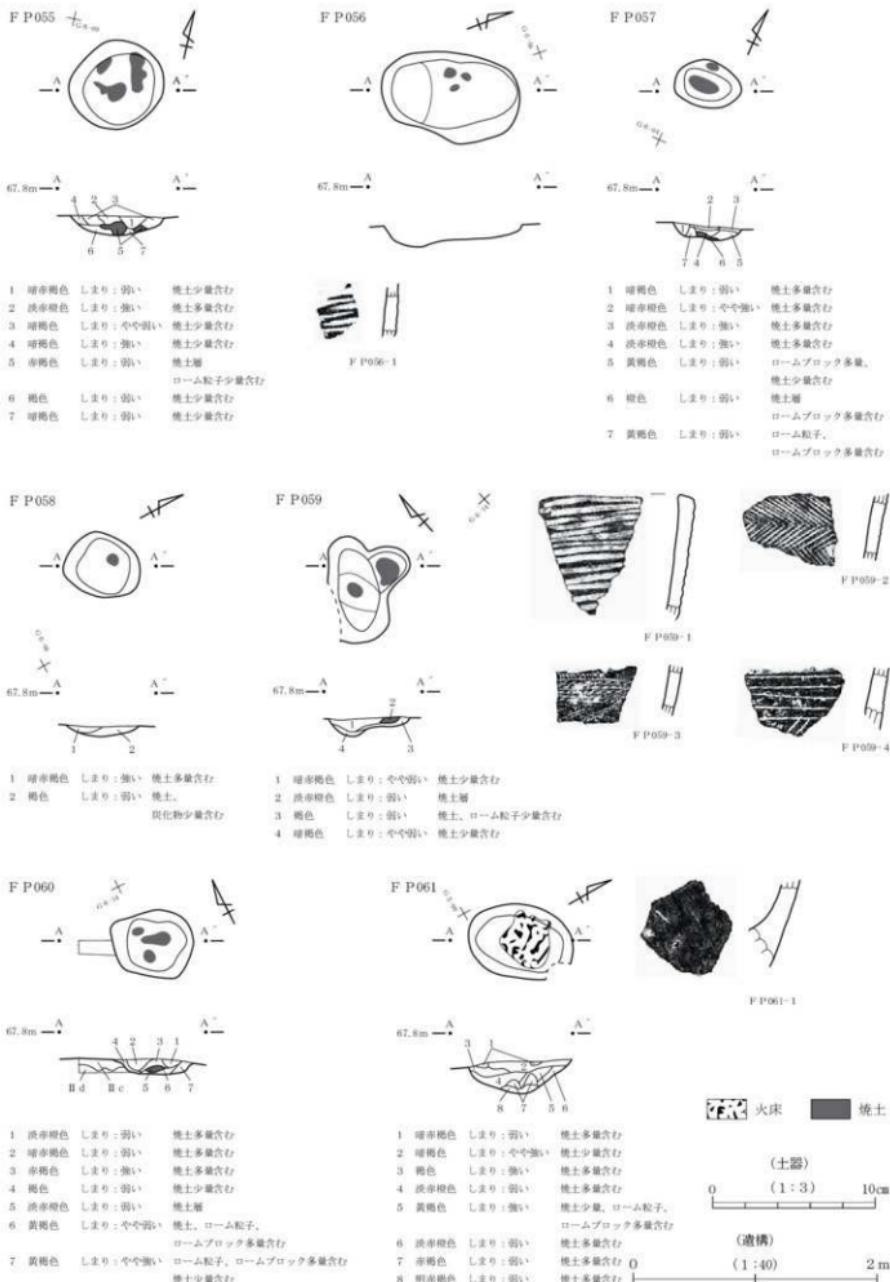
G 6-15 グリッドを中心位置する。平面形は円形を呈する。燃焼部のみの検出であり、足場の存在は不明確である。長軸は69 cm、短軸は54 cm、深さは13 cmである。底面にまとまった焼土が確認できるが、明確な火床は確認できなかった。遺物は、縄文土器 38.30 g (第II群 22.61 g、第X群 15.69 g)、礫 134.74 g (チャート 101.98 g、砂岩 32.76 g) が出土した。

F P 061 (旧 : S F 014)

G 5-89 グリッドを中心位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸はN-40° - Eである。長軸は87 cm、短軸は59 cm、深さは21 cmである。8層下に火床が確認できた。焼土は覆土全体から確認でき、底面もレンズ状を呈することから、燃焼部と足場の区分は不明確である。遺物は、縄文土器 52.97 g (第II群 52.97 g)、礫 220.18 g (チャート 3.27 g、砂岩 211.87 g、ホルンフェルス 5.04 g) が出土した。1は無文であり、底部付近と思われる。胎土に纖維は含まない。



第9図 繩文時代炉穴、出土土器①



第10図 繩文時代炉穴、出土土器②

(2) 陥穴 (第11図)

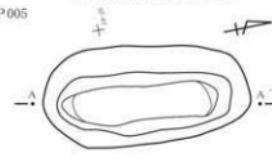
TP 005 (旧: SK 001)

G 7-08グリッドを中心に位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸はN-11°-Eである。長軸は171cm、短軸は80cm、深さは113cmである。断面形は、長軸が逆台形、短軸がV字形を呈する。底面は平坦で、ピットは確認できなかった。遺物は、縄文土器289.92g(第I群49.72g、第II群228.54g、第X群11.66g)、礫412.94g(チャート142.21g、流紋岩4.02g、砂岩204.68g、ホルンフェルス62.03g)が出土した。1・2は洞部片である。1は縦位に撲糸文1が疊らに施される。稲荷台式と推測する。2は太い沈線が縦位に施される。

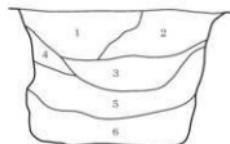
TP 006 (旧: SK 002)

G 6-89グリッドを中心に位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸はN-19°-Eである。長軸は182cm、短軸は109cm、深さは100cmである。断面形は、長軸・短軸ともに逆台形を呈する。底面は平坦で、ピットは確認できなかった。遺物は、縄文土器285.70g(第II群279.25g、第X群6.45g)、石器3点122.54g(礫器1点114.90g、剥片2点7.64g)、礫989.25g(チャート82.78g、流紋岩43.40g、砂岩853.69g、ホルンフェルス9.38g)が出土した。1は口縁部片で、口唇部は角頭状を呈し、横位の条痕文が施される。2は無文であり、底部付近と思われる。3は胎土に纖維を含まない。3は半分に割れた砂岩の扁平礫を素材とする礫器である。調整は左側面のみに施される。上・下部は欠損するが、下部は欠損後も使用された痕跡が確認できる。

TP 005

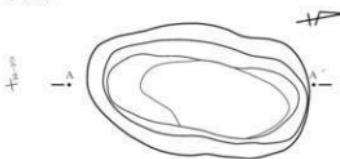


67.8m

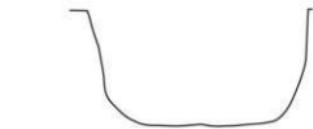


- |       |           |                   |
|-------|-----------|-------------------|
| 1 球褐色 | しまり: 強い   | ローム粒子多量含む         |
| 2 球褐色 | しまり: 中や弱い | ローム粒子少量含む、1層より細い  |
| 3 黒褐色 | しまり: 強い   | ローム粒子少量含む         |
| 4 球褐色 | しまり: 強い   | ローム粒子、ロームブロック少量含む |
| 5 球褐色 | しまり: 中や弱い | ローム粒子少量含む         |
| 6 黄褐色 | しまり: 弱い   | ローム粒子、ロームブロック多量含む |

TP 006



67.8m



TP 006-1



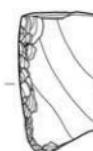
TP 005-1



TP 005-2



TP 005-3



TP 006-3



第11図 縄文時代陥穴、出土土器・石器

(3) 土坑 (第12~14図)

S K 011 (旧: SK 003)

G 6-39グリッドを中心位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸はN-23°-Wである。長軸は155cm、短軸は106cm、深さは47cmである。遺物は、縄文土器178.92g(第II群162.72g、第III群8.81g、第X群7.39g)、石器1点1.97g(二次加工を有する剥片1点1.97g)、礫1,523.49g(チャート208.04g、流紋岩392.56g、砂岩891.07g、ホルンフェルス31.82g)が出土した。1~3は胸部片である。1は3本の平行沈線を基本とし、幾何学文を構成する。2は細い沈線、3は太い沈線が斜位に施される。

S K 012 (旧: SK 004)

H 6-71グリッドを中心位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸はN-59°-Wである。長軸は231cm、短軸は161cm、深さは30cmである。P 206と重複するが、新旧・相互関係は不明である。遺物は、縄文土器282.11g(第II群266.40g、第X群15.71g)、石器4点1.97g(二次加工を有する剥片1点0.80g、剥片3点1.17g)、礫598.14g(チャート86.57g、流紋岩136.59g、砂岩356.79g、ホルンフェルス18.19g)が出土した。

S K 013 (旧: SK 005)

H 6-53グリッドに位置する。主軸はN-82°-Wであり、深さは21cmである。遺構東部は調査区外に展開するため、形状・長軸長・短軸長は不明である。遺物は、縄文土器21.70g(第II群19.97g、第X群1.73g)、石器1点0.34g(剥片1点0.34g)、礫121.82g(チャート92.20g、砂岩29.62g)が出土した。

S K 014 (旧: SK 006・G 6-P 36)

H 6-41グリッドに位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸はN-43°-Eである。長軸は80cm、短軸は53cm、深さは24cmである。遺物は、縄文土器162.23g(第II群151.80g、第X群10.43g)、石器2点1.22g(剥片2点1.22g)、礫199.36g(チャート8.91g、流紋岩58.45g、砂岩102.04g、ホルンフェルス29.96g)が出土した。

S K 015 (旧: SK 007)

G 6-59グリッドを中心位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸はN-22°-Eである。短軸は105cm、深さは21cmである。遺構西部は搅乱の影響を受けているため、長軸長は不明である。遺物は、縄文土器362.87g(第II群335.03g、第X群27.84g)、石器4点1.62g(剥片4点1.62g)、礫1,006.12g(チャート379.33g、流紋岩63.61g、砂岩470.74g、ホルンフェルス29.29g、凝灰岩63.15g)が出土した。1は無文の尖底部である。胎土に纖維は含まない。

S K 016 (旧: SK 008)

G 6-69グリッドを中心位置する。平面形は不定形を呈する。深さは26cmである。遺構東部は搅乱の影響を受けているため、主軸・長軸長・短軸長は不明である。遺物は、縄文土器637.46g(第II群603.75g、第X群33.71g)、石器5点5.99g(剥片5点5.99g)、礫1,903.73g(チャート428.81g、流紋岩381.86g、砂岩929.03g、ホルンフェルス123.13g、凝灰岩40.90g)が出土した。1・2は胸部片である。1は横位の沈線文下に、格子目文が施される。2は斜位の沈線文に縦位の沈線文を重ねる。

S K 017 (旧: SK 011)

G 6-19グリッドを中心位置する。平面形は円形を呈し、主軸はN-25°-Wである。長軸は114cm、短軸は102cm、深さは30cmである。遺構内南部に径10cm、深さ9cmのピットを有する。遺物は、縄文土器171.43g(第II群166.19g、第X群5.24g)、石器2点2.83g(剥片2点2.83g)、礫504.64g(チャート129.03g、流紋岩30.46g、砂岩234.55g、ホルンフェルス14.20g、頁岩96.40g)が出土した。1は口縁部片で、口唇部は角頭状を呈し、やや外反する。外面は条痕文が斜位に施される。胎土に纖維は含まない。

S K 018 (旧: SK 010)

H 6-10グリッドを中心位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸はN-75°-Eである。長軸は154cm、

短軸は102cm、深さは39cmである。P 225と重複するが、新旧・相互関係は不明である。遺物は、縄文土器335.07g(第II群315.37g、第X群19.70g)、石器1点0.29g(剥片1点0.29g)、礫1,067.61g(チャート204.88g、流紋岩439.69g、砂岩336.40g)、ホルンフェルス14.65g、凝灰岩71.99g)が出土した。SK 019(旧: SK 012)

H 5-61グリッドを中心に位置する。主軸はN-76°-Eである。短軸は104cm、深さは20cmである。遺構東部は調査区外に展開するため、形状・長軸長は不明である。遺物は、縄文土器119.10g(第II群115.51g、第X群3.59g)、礫66.31g(流紋岩19.18g、砂岩16.87g)、ホルンフェルス30.26g)が出土した。1は口縁部片で、口唇部は角頭状を呈し、太い沈線が斜位に施される。補修孔を有する。

SK 020(旧: SK 013)

H 5-71グリッドを中心に位置する。平面形は橢円形を呈し、主軸はN-16°-Wである。長軸は89cm、深さは35cmである。遺構東部は調査区外に展開するため、短軸長は不明である。遺物は、縄文土器238.12g(第II群236.33g、第X群1.79g)、礫467.78g(チャート64.41g、流紋岩159.12g、砂岩244.25g)が出土した。

SK 021(旧: SK 018)

G 5-69グリッドを中心に位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸はN-1°-Wである。長軸は179cm、深さは26cmである。P 118と重複しているため、短軸長は不明である。P 118との新旧・相互関係は不明である。遺物は、縄文土器608.84g(第II群588.38g、第X群20.46g)、石器2点2.84g(剥片2点2.84g)、礫283.70g(チャート27.71g、流紋岩18.54g、砂岩237.45g)が出土した。1は口縁部片で、口唇部は内削ぎ状を呈する。口縁部直下に横位の太い短沈線文が施される。

SK 022・023(旧: SK 014)

SK 022はG 5-47を中心に位置し、平面形は長楕円形を呈し、主軸はN-35°-Eである。長軸は157cm、短軸は99cm、深さは53cmである。SK 023はG 5-48を中心に位置する。主軸はN-41°-Eで、深さは28cmである。SK 022と重複するため、平面形・長軸長・短軸長は不明である。SK 022の方が新しい。SK 022-023はF P 051、P 135とも重複するが、新旧関係は不明である。F P 051と重複することから、炉穴と関係する遺構の可能性も考えられるが、覆土から焼土は検出されていない。遺物は2基合計で、縄文土器1,004.63g(第II群983.24g、第X群21.39g)、石器7点71.16g(磨石類1点64.81g、二次加工を有する剥片2点5.24g、剥片4点1.11g)、礫1,020.06g(チャート148.74g、流紋岩85.06g、砂岩623.73g、ホルンフェルス111.05g、凝灰岩51.48g)が出土した。SK 022-1・2は口縁部片で、口唇部は角頭状を呈する。1は横位の太い沈線文が施される。2は帯状格子目文を横位に2段施し、その区画間に擦痕状の平行沈線文が施される。SK 023-1は無文の尖底部である。形状は尖底であるが、一部平坦面が確認できる。胎土に纖維は含まない。

SK 024(旧: SK 015)

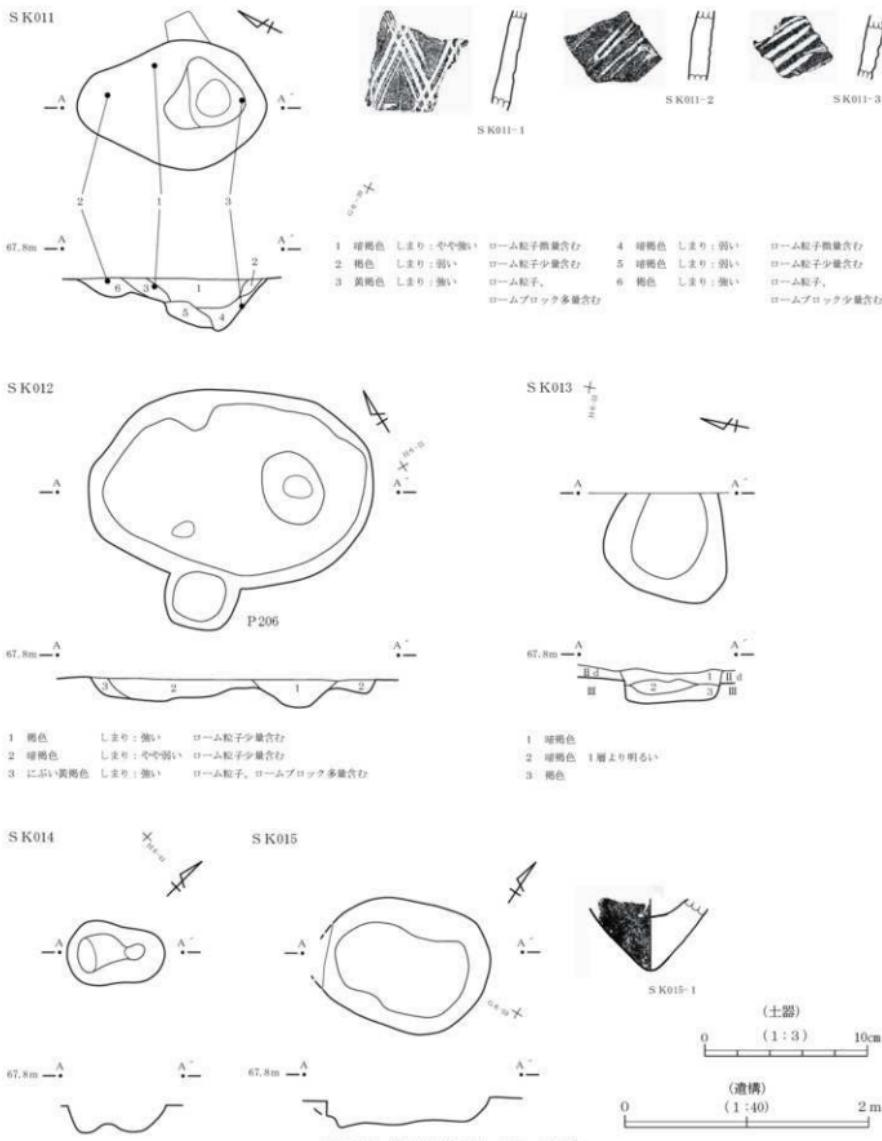
G 5-46グリッドを中心に位置する。平面形は橢円形を呈する。深さは49cmである。遺構北西部は調査区外に展開するため、主軸・長軸長・短軸長は不明である。P 136と重複しているが、新旧・相互関係は不明である。遺物は、縄文土器628.26g(第II群596.54g、第X群31.72g)、石器1点0.10g(剥片1点0.10g)、礫399.09g(チャート85.47g、流紋岩68.91g、砂岩231.33g、凝灰岩13.38g)が出土した。1・2は胴部片である。1は横位の細い沈線文と半裁竹管による刺突文が施される。2は外面に横位の擦痕を残す。3は尖底部である。上部に横位の条痕文が施される。2・3は胎土に纖維を含まない。

SK 025(旧: SK 017)

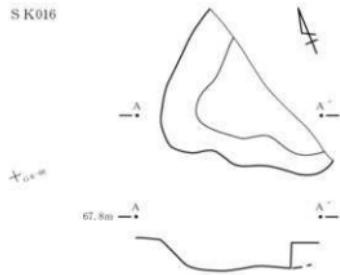
G 5-52グリッドを中心に位置する。平面形は橢円形を呈する。短軸は122cm、深さは38cmである。遺構北部は調査区外に展開するため、主軸・長軸長は不明である。遺物は、縄文土器79.16g(第II群79.16g)、石器1点0.21g(剥片1点0.21g)、礫173.98g(チャート52.53g、流紋岩5.70g、砂岩115.75g)が出土した。

S K 026 (旧: S K 016)

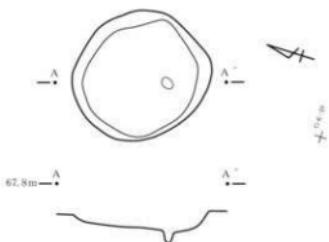
G 5-64 グリッドを中心と位置する。平面形は長楕円形を呈し、主軸は N-35°-E である。長軸は 167 cm、短軸は 93 cm、深さは 38 cm である。遺物は、縄文土器 489.15 g (第 II 群 468.70 g、第 III 群 5.58 g、第 X 群 14.87 g)、石器 2 点 1.92 g (剥片 2 点 1.92 g)、礫 230.50 g (チャート 65.97 g、砂岩 164.53 g) が出土した。1 は無文の尖底部である。胎土に纖維は含まない。



S K016



S K017



S K016-1

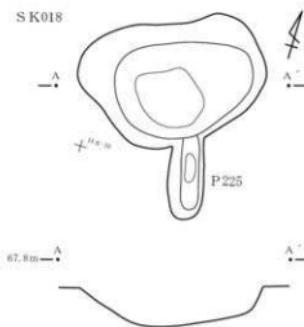


S K016-2

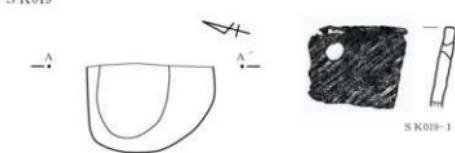


S K017-1

S K018



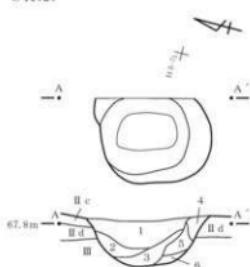
S K019



S K019-1

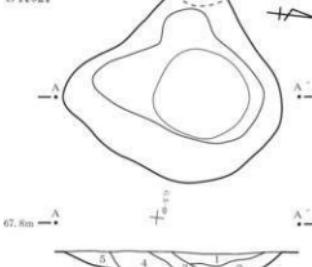
- 1 増褐色  
しまり：弱い  
ローム粒子少數含む  
しまり：強い  
ローム粒子、ロームブロック少數含む
- 2 褐色  
しまり：弱い  
ローム粒子、ロームブロック少數含む
- 3 増黄褐色  
しまり：弱い  
ローム粒子、ロームブロック多量含む
- 4 にじみ黄褐色  
しまり：弱い  
ローム粒子、ロームブロック多量含む

S K020



- 1 増褐色  
しまり：弱い  
ローム粒子少數含む
- 2 黒褐色  
しまり：弱い  
ローム粒子少數含む
- 3 増褐色  
しまり：やや弱い  
ローム粒子、ロームブロック多量含む
- 4 褐色  
しまり：弱い  
ローム粒子、ロームブロック多量含む
- 5 にじみ黄褐色  
しまり：弱い  
ローム粒子、ロームブロック多量含む
- 6 黄褐色  
しまり：強い  
ローム粒子少數含む

S K021

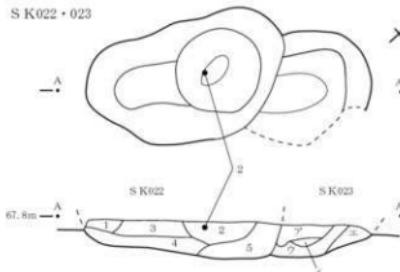


- 1 増褐色  
しまり：弱い  
ローム粒子、他土少量含む
- 2 褐色  
しまり：やや弱い  
ローム粒子、ロームブロック多量含む
- 3 増褐色  
しまり：弱い  
ローム粒子少數含む
- 4 増黄褐色  
しまり：弱い  
ローム粒子、ロームブロック多量含む
- 5 褐色  
しまり：弱い  
ローム粒子、ロームブロック少數含む

(土器) 0 (1 : 3) 10cm (遺構) 0 (1 : 40) 2m

第13図 繩文時代土坑、出土土器②

SK 022 + 023



SK 022

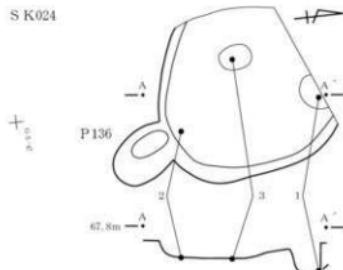
- 1 純色 しまり: 弱い ローム粒子少量含む
- 2 緯褐色 しまり: 弱い ローム粒子、ロームブロック少量含む
- 3 明黄褐色 しまり:やや弱い ローム粒子少量含む
- 4 明黃褐色 しまり: 弱い ローム粒子、ロームブロック多量含む
- 5 にじみ黄褐色 しまり: 弱い ローム粒子、ロームブロック多量含む



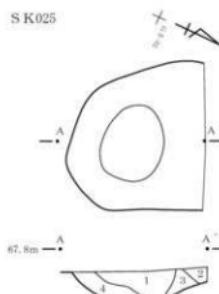
SK 022-2

SK 023-1

SK 024

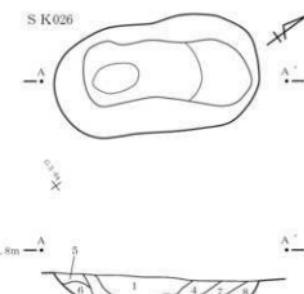


SK 025



- 1 緯褐色 しまり: 弱い ローム粒子、ロームブロック少量含む
- 2 緯褐色 しまり: 弱い ローム粒子少量含む
- 3 明黄褐色 しまり: 強い ローム粒子、ロームブロック多量含む
- 4 純色 しまり: 強い ローム粒子、ロームブロック少量含む

SK 026



- 1 緯褐色 しまり: 弱い ローム粒子、粘土少量含む
- 2 緯褐色 しまり: 強い ローム粒子、ロームブロック少量含む
- 3 緯黃褐色 しまり: 強い ローム粒子、ロームブロック多量含む
- 4 緯褐色 しまり: 強い ローム粒子、ロームブロック少量含む
- 5 純色 しまり: 弱い ローム粒子、ロームブロック多量含む
- 6 にじみ黄褐色 しまり: 弱い ローム粒子、ロームブロック少量含む
- 7 にじみ黄褐色 しまり: 強い ローム粒子、ロームブロック多量含む
- 8 純色 しまり: 強い ローム粒子少量含む



第14図 繩文時代土坑、出土土器③

(4) ピット

調査区全域から244基検出された。形状や底面形から、擾乱や風倒木等も含む可能性もあるが、判断ができないため、すべて遺構とした。遺物は、縄文土器9,950.56g(第I群14.85g、第II群9,447.38g、第III群79.54g、第VI群5.75g、第X群403.04g)、土偶1点7.69g、石器64点95.90g(石鏃1点1.23g、石核3点31.95g、二次加工を有する剥片1点2.56g、剥片59点60.16g)、礫26,929.20g(チャート5,414.29g、流紋岩5,967.76g、砂岩11,069.03g、安山岩1,632.27g、ホルンフェルス1,069.99g)、凝灰岩1,308.00g、頁岩203.79g、その他264.07g)が出土した。時期は出土遺物からすべて縄文時代早期のものと推測する。

詳細は第1～3表のとおりである。なお、出土遺物は(5) 遺構外出土遺物に合わせて記載する。

第1表 ピット観察表①

遺構名	遺構番号	位置	平面形	長軸	短軸	深さ	出土遺物
P1	G5-1	G5-63	楕円形	42	39	24	
P2	G5-2	G5-53	円形	87	-	16	土器: 第Ⅲ群2374g、第Ⅳ群2.69g、第Ⅵ群12.39g 石器: 剥片2点12.15g 礫: 2.97619g
P3	G5-3	G5-63	円形	49	43	17	
P4	G5-4	G5-63	円形	49	39	19	
P5	G5-5	G5-73	楕円形	-	50	44	土器: 第Ⅱ群1790g 石器: 二次加工を有する剥片1点2.56g
P6	G5-6	G5-73	楕円形	73	61	30	土器: 第Ⅱ群2208g 石器: 33.95g
P7	G5-7	G5-73	楕円形	58	46	25	土器: 第Ⅱ群3709g 石器: 221.84g
P8	G5-8	G5-73	円形	55	50	15	土器: 第Ⅱ群1412g 石器: 21.01g
P9	G5-9	G5-73	円形	56	54	16	
P10	G5-10	G5-84	楕円形	60	54	31	土器: 第Ⅱ群3346g 石器: 51.85g
P11	G5-11	G5-84	円形	42	41	20	土器: 第Ⅲ群2724g 石器: 10.85g 礫: 23.85g
P12	G5-12	G5-84	円形	62	56	13	土器: 第Ⅳ群189g 石器: 47.50g
P13	G5-13	G5-74	円形	44	43	16	土器: 第Ⅱ群3743g 石器: 67.45g
P14	G5-14	G5-84	長楕円形	60	44	13	土器: 第Ⅴ群161.9g、第Ⅵ群0.96g 石器: 1.02g
P15	G5-15	G5-74	不定形	74	51	29	土器: 第Ⅱ群1044g、第Ⅳ群14.54g 石器: 剥片1点75g 礫: 10.82g
P16	G5-16	G5-85	円形	55	47	11	土器: 第Ⅲ群733g 石器: 263.92g
P17	G5-17	G5-85	円形	38	27	10	土器: 48.7g
P18	G5-18	G5-85	長楕円形	84	53	14	土器: 第Ⅲ群110.16g、第Ⅳ群669g 石器: 剥片1点12g 礫: 76.80g
P19	G5-19	G5-85	円形	40	36	16	土器: 第Ⅲ群292g
P20	G5-20	G5-85	長楕円形	87	49	11	土器: 第Ⅱ群5290g、第Ⅳ群2.42g 石器: 2.52g
P21	G5-21	G5-54	楕円形	86	69	26	土器: 第Ⅲ群7513g、第Ⅳ群26g 石器: 80.85g
P22	G5-22	G5-54	円形	71	61	13	
P23	G5-23	G5-54	楕円形	59	51	14	土器: 第Ⅲ群2649g 石器: 剥片1点0.01g 礫: 56.73g
P24	G5-24	G5-44	楕円形	58	51	19	土器: 第Ⅲ群1350g 石器: 剥片1点12g 礫: 3.25g
P25	G5-25	G5-54	楕円形	74	52	23	土器: 第Ⅲ群7827g 石器: 33.70g
P26	G5-26	G5-55	円形	59	44	15	土器: 第Ⅲ群85616g 石器: 72.80g
P27	G5-27	G5-55	長楕円形	113	57	17	土器: 第Ⅲ群6714g、第Ⅳ群2.77g 石器: 66.93g
P28	G5-28	G5-65	長楕円形	71	44	19	
P29	G5-30	G5-61	楕円形	93	82	24	土器: 第Ⅲ群9449g、第Ⅳ群2.71g 石器: 剥片1点33g 礫: 203.42g
P30	G5-31	G5-61	円形	29	27	20	
P31	G5-32	G5-72	円形	44	37	17	土器: 第Ⅲ群3013g 石器: 6.84g
P32	G5-33	G5-62	楕円形	132	127	44	土器: 第Ⅲ群141.39g、第Ⅳ群20.41g 石器: 第Ⅲ群2.72g
P33	G5-34	G5-62	円形	63	57	19	土器: 第Ⅲ群18.53g 石器: 破片1点15.4g 礫: 159.06g
P34	G5-35	G5-93	円形	70	60	18	土器: 第Ⅲ群2009g 石器: 1.02g
P35	G5-36	G5-93	円形	56	52	14	土器: 第Ⅲ群18.53g 石器: 破片1点15.4g 礫: 159.06g
P36	G5-37	G5-93	不定形	81	69	15	土器: 第Ⅲ群10.63g 石器: 1.0619g

遺構名	遺構番号	位置	平面形	長軸	短軸	深さ	出土遺物
P37	G5-38	G5-83	円形	54	45	8	
P38	G5-39	G5-63	円形	47	45	9	土器: 第Ⅲ群15.75g
P39	G5-40	G5-93	円形	45	38	12	土器: 第Ⅲ群4.68g 石器: 48.424g
P40	G5-41	G5-63	楕円形	55	43	8	土器: 第Ⅲ群8.75g、第Ⅳ群1.89g 石器: 剥片3点1.45g 礫: 1.45g
P41	G5-42	G5-94	楕円形	56	54	20	土器: 第Ⅲ群88.75g、第Ⅳ群1.89g 石器: 剥片3点1.45g 礫: 1.45g
P42	G5-43	G5-94	円形	84	89	19	土器: 第Ⅲ群89.48g、第Ⅳ群15.10g 石器: 第Ⅳ群1.14g 礫: 1.45g
P43	G5-44	G5-94	楕円形	57	52	19	土器: 第Ⅲ群55.50g、第Ⅳ群3.50g 石器: 1.78.05g
P44	G5-45	G5-94	楕円形	46	35	22	土器: 第Ⅲ群51.17g 石器: 2.6672g
P45	G5-46	G5-94	楕円形	55	46	8	土器: 第Ⅲ群2.16g 石器: 44.59g
P46	G5-47	G5-84	円形	29	26	7	
P47	G5-48	G5-85	円形	48	39	18	
P48	G5-49	G5-95	円形	41	33	8	
P49	G5-50	G5-95	楕円形	68	62	15	土器: 第Ⅲ群44.85g、第Ⅳ群42.97g 石器: 7.8757g
P50	G5-61	G5-96	円形	75	60	22	
P51	G5-62	G5-96	円形	26	25	11	
P52	G5-63	G5-96	円形	38	37	14	
P53	G5-64	G5-96	円形	48	41	10	
P54	G5-65	G5-96	円形	36	32	13	
P55	G5-66	G5-96	円形	43	35	13	
P56	G5-67	G5-96	円形	32	30	19	土器: 第Ⅲ群52.52g 石器: 25.05g
P57	G5-68	G5-96	楕円形	79	60	31	土器: 第Ⅲ群100.77g 石器: 2.61g
P58	G5-81	G5-93	楕円形	85	74	20	土器: 第Ⅲ群80.04g 石器: 7.086g
P59	G5-83	G5-103	長楕円形	121	56	20	土器: 第Ⅲ群253.16g 石器: 2.769g
P60	G5-84	G5-104	円形	37	36	19	土器: 第Ⅲ群7.21g、第Ⅳ群2.95g 石器: 剥片3点3.81g 礫: 1.30.30g
P61	G5-85	G5-68	円形	31	29	13	土器: 第Ⅲ群75.37g
P62	G5-86	G5-66	楕円形	39	27	16	土器: 第Ⅲ群131.18g、第Ⅳ群0.85g 石器: 剥片1点0.79g
P63	G5-87	G5-66	楕円形	-	19	19	土器: 第Ⅲ群45.33g
P64	H5-1	H5-90	楕円形	-	79	22	土器: 第Ⅲ群129.95g、第Ⅳ群2.72g 石器: 剥片1点0.22g
P65	H5-2	H5-80	円形	50	48	14	土器: 第Ⅲ群26.54g
P66	H5-3	H5-90	長楕円形	103	52	14	土器: 第Ⅲ群77.52g 石器: 第Ⅳ群1点1.64g 礫: 2.85.80g
P67	H5-4	H5-90	楕円形	59	45	11	土器: 第Ⅲ群8.30g
P68	H5-5	G5-99	楕円形	49	37	25	土器: 第Ⅲ群16.60g
P69	H5-6	G5-99	楕円形	62	48	2	土器: 第Ⅲ群18.44g 石器: 7.53g
P70	H5-7	G5-89	円形	42	40	19	土器: 第Ⅲ群9.11g
P71	H5-8	H5-80	楕円形	57	49	24	土器: 第Ⅲ群6.54g 石器: 6.68.68g
P72	H5-9	G5-79	楕円形	83	76	29	土器: 第Ⅲ群189.20g 石器: 13.170g

第2表 ピット観察表②

遺物名	位置	平面形	長軸	短軸	深さ	出土遺物	
P73	H5-10	H5-70	楕円形	56	49	30	土器: 第Ⅲ群257g
P74	H5-11	H5-70	楕円形	66	46	12	土器: 第Ⅲ群2795g 石器: 剣片1点355g 骨13g
P75	H5-12	G5-99	不定形	67	47	52	土器: 第Ⅲ群4104g 石器: 剣片1点152g 骨84.0g
P76	H5-13	G5-99	楕円形	65	52	14	土器: 第Ⅲ群2692g 骨6.33g
P77	H5-14	G6-08	円形	53	45	23	
P78	H5-15	G5-98	円形	54	44	26	土器: 第Ⅲ群8089g 石器: 剑片1点30g 骨13.7g
P79	H5-16	G5-98	円形	41	38	10	土器: 第Ⅲ群1.1kg 骨15.02g
P80	H5-17	G5-97	楕円形	-	68	11	土器: 第Ⅲ群3795g, 第Ⅳ群1.62g 石器: 剑片1点331g
P81	H5-18	G5-98	円形	61	51	18	土器: 第Ⅲ群1点0.93g 石器: 70.8g
P82	H5-19	G5-98	円形	40	39	13	土器: 755.3g
P83	H5-20	G5-88	楕円形	74	57	26	土器: 第Ⅲ群3184g, 第Ⅳ群2.05g 石器: 134.37g
P84	H5-21	G5-89	不定形	68	53	20	土器: 第Ⅲ群1423g 骨4.00g
P85	H5-22	H5-70	楕円形	82	56	26	土器: 第Ⅲ群5419g, 第Ⅳ群1029g 骨4.1kg
P86	H5-23	G5-79	楕円形	72	58	20	土器: 第Ⅲ群8433g 石器: 剑片1点32g 骨171.88g
P87	H5-24	G5-88	円形	64	59	20	
P88	H5-25	G5-88	円形	55	47	28	土器: 第Ⅲ群2.36g
P89	H5-26	G5-87	円形	40	36	11	土器: 第Ⅲ群2.19g 骨15.2g
P90	H5-27	G5-87	楕円形	67	51	35	土器: 第Ⅲ群18.14g
P91	H5-28	G5-78	楕円形	82	69	25	土器: 第Ⅲ群4.48g, 第Ⅳ群2.04g 石器: 石核1点4.18g 骨277.11g
P92	H5-29	G5-78	楕円形	79	65	21	土器: 第Ⅲ群34.89g, 第Ⅳ群6.29g 骨200.32g
P93	H5-30	G5-78	楕円形	44	34	9	骨: 35.5g
P94	H5-31	G5-77	円形	63	55	15	土器: 第Ⅲ群11.71g 骨: 55.0g
P95	H5-32	G5-77	円形	49	42	9	
P96	H5-33	G5-89	円形	28	27	21	土器: 第Ⅲ群13.13g
P97	H5-34	H5-70	円形	94	90	39	土器: 第Ⅲ群7832g 骨: 206.8g
P98	H5-35	H5-70	円形	85	-	21	土器: 第Ⅲ群42.82g 骨: 5.27g
P99	H5-37	H5-70	楕円形	66	51	16	土器: 第Ⅲ群485.50g 骨: 171.2g
P100	H5-38	H5-80	楕円形	-	41	7	土器: 第Ⅲ群92.01g, 第Ⅳ群2.07g 石器: 剑片1点3.90g 骨: 86.15g
P101	H5-39	H5-80	楕円形	44	-	9	
P102	H5-40	H5-80	楕円形	29	24	8	
P103	H5-41	G5-89	円形	44	40	52	土器: 第Ⅲ群49.05g 骨: 17.10g
P104	H5-42	G5-69	楕円形	76	62	16	土器: 第Ⅲ群91.18g, 第Ⅳ群2.07g 石器: 剑片1点53.3g 骨: 123.20g
P105	H5-43	G5-59	円形	29	26	8	
P106	H5-44	H5-80	長楕円形	55	34	14	土器: 第Ⅲ群4.30g 骨: 38.85g
P107	H5-45	H5-50	楕円形	64	49	9	土器: 第Ⅲ群15.00g
P108	H5-46	H5-50	楕円形	65	63	9	土器: 第Ⅲ群92.01g, 第Ⅳ群1.64g 骨: 44.7g
P109	H5-47	H5-50	円形	43	40	17	土器: 第Ⅲ群163.79g 石器: 剑片1点0.541g
P110	H5-48	H5-40	円形	34	30	35	
P111	H5-49	H5-50	長楕円形	91	42	17	土器: 第Ⅲ群40.44g, 第Ⅳ群0.25g 骨: 13.0g
P112	H5-50	H5-40	楕円形	95	73	35	土器: 第Ⅲ群41.41g 石器: 剑片1点22g 骨: 261.26g
P113	H5-51	G5-59	円形	70	67	11	土器: 第Ⅲ群5601g
P114	H5-52	G5-58	円形	63	56	12	土器: 第Ⅲ群1517g 骨: 131.0g
P115	H5-53	G5-58	円形	35	32	7	土器: 第Ⅲ群1436g
P116	H5-54	G5-69	円形	44	39	17	土器: 第Ⅲ群8035g 骨: 83.55g
遺物名	位置	平面形	長軸	短軸	深さ	出土遺物	
P117	G5-44	H5-55	長楕円形	131	91	15	土器: 第Ⅲ群90.82g, 第Ⅳ群13.96g 骨: 379.72g
P118	H5-56	G5-66	円形	80	-	17	
P119	H5-57	G5-66	円形	55	54	19	土器: 第Ⅲ群44.40g, 第Ⅳ群2.29g 骨: 1.915.63g
P120	H5-58	G5-66	円形	48	42	40	
P121	H5-59	G5-68	楕円形	90	77	24	土器: 第Ⅲ群111.73g, 第Ⅳ群8.07g
P122	H5-60	G5-68	円形	50	43	51	土器: 第Ⅲ群14.06g 骨: 223.95g
P123	H5-61	G5-68	円形	55	54	23	
P124	H5-62	G5-67	円形	39	36	25	
P125	H5-63	G5-67	円形	50	49	14	土器: 第Ⅲ群23.37g 石器: 剑片1点1.05g
P126	H5-64	G5-57	楕円形	76	68	18	
P127	H5-65	G5-49	楕円形	79	57	27	土器: 第Ⅲ群77.00g 骨: 114.9g
P128	H5-66	G5-49	円形	75	68	28	土器: 第Ⅲ群53.14g, 第Ⅳ群0.48g 石器: 剑片1点0.17g 骨: 117.9g
P129	H5-67	G5-39	楕円形	59	41	14	土器: 第Ⅲ群31.84g, 第Ⅳ群6.42g
P130	H5-68	G5-48	円形	47	42	8	
P131	H5-69	G5-66	不定形	170	105	36	土器: 第Ⅲ群103.57g, 第Ⅳ群4.99g 石器: 剑片1点16.01g 骨: 171.42g
P132	H5-70	G5-57	楕円形	87	-	19	土器: 第Ⅲ群82.93g, 第Ⅳ群16.17g 骨: 188.93g
P133	H5-71	G5-47	円形	39	36	27	
P134	H5-72	G5-47	楕円形	45	34	14	
P135	H5-73	G5-48	楕円形	-	-	19	
P136	H5-74	G5-47	楕円形	-	39	26	土器: 第Ⅲ群76.00g 骨: 54.15g
P137	H5-75	G5-45	楕円形	-	-	21	土器: 第Ⅲ群91.99g
P138	H5-76	G5-45	楕円形	-	-	18	土器: 第Ⅲ群54.82g 骨: 136.65g
P139	H5-77	G5-56	楕円形	-	-	22	土器: 第Ⅲ群17.56g
P140	H5-78	G5-56	楕円形	30	20	11	
P141	H5-79	G5-66	円形	46	44	21	
P142	H5-80	G5-57	長楕円形	260	-	36	土器: 第Ⅲ群24711g, 第Ⅳ群51.17g 石器: 剑片5点5.74g 骨: 195.57g
P143	H5-81	G5-38	不定形	-	-	29	
P144	H5-82	G5-56	楕円形	-	-	82	土器: 第Ⅲ群370.03g, 第Ⅳ群13.46g 石器: 石核16.87g 骨: 186.830g, 剑片2点0.99g
P145	H5-83	H5-61	円形	38	28	8	土器: 第Ⅲ群8.87g 骨: 74.31g
P146	H5-84	H5-90	円形	65	63	18	
P147	H5-85	G5-69	円形	31	26	21	
P148	G6-1	G6-24	円形	29	26	53	土器: 第Ⅲ群43.45g
P149	G6-2	G6-25	円形	64	55	24	
P150	G6-3	G6-25	楕円形	83	84	15	土器: 第Ⅲ群69.80g
P151	G6-4	G6-37	楕円形	72	49	23	土器: 第Ⅲ群28.85g
P152	G6-5	G6-37	円形	68	62	24	石器: 剑片1点0.19g
P153	G6-6	G6-46	円形	38	34	19	骨: 42.826g
P154	G6-7	G6-47	円形	35	26	23	土器: 第Ⅲ群36.89g, 第Ⅳ群7.33g 骨: 67.30g
P155	G6-8	G6-45	不定形	-	-	35	土器: 第Ⅲ群53.91g, 第Ⅳ群1.80g 骨: 230.16g
P156	G6-9	G6-55	楕円形	-	-	14	土器: 第Ⅲ群8.17g 骨: 36.59g
P157	G6-10	G6-55	円形	66	54	29	土器: 第Ⅲ群22.33g 骨: 129.92g
P158	G6-11	G6-56	円形	56	48	17	骨: 83.67g
P159	G6-12	G6-67	楕円形	122	96	43	石器: 剑片1点133.2g 骨: 106.71g
P160	G6-13	G6-17	長楕円形	114	71	30	骨: 82.15g

第3表 ピット観察表③

遺物名	出発地名	直置	平面形	長軸	短軸	深さ	出土遺物	直位
P161	G6-14	G6-78	長楕円形	112	77	17	土器：第Ⅲ群844g、石器：剥片2点0.87g 重：113.80g	
P162	G6-15	G6-78	円形	52	48	42		
P163	G6-16	G6-58	円形	81	66	31	土器：第Ⅲ群553.39g	
P164	G6-17	G6-69	円形	-	-	20	土器：第Ⅲ群856g、第Ⅳ群1.04g 重：108.46g	
P165	G6-20	G6-48	不定形	-	-	14		
P166	G6-21	G6-29	円形	36	31	16	土器：第Ⅲ群7943g、第Ⅳ群1.37g 重：873.52g	
P167	G6-23	G6-49	円形	50	46	26	土器：第Ⅲ群5395g	
P168	G6-24	G6-49	円形	44	42	14	土器：第Ⅲ群1824g	
P169	G6-25	G6-39	円形	40	35	15	土器：第Ⅲ群120.13g、第Ⅳ群0.48g	
P170	G6-26	G6-38	円形	32	30	14	土器：第Ⅲ群1495g、第Ⅳ群0.59g 石器：剥片1点0.16g	
P171	G6-27	G6-39	円形	42	34	17		
P172	G6-28	G6-29	円形	55	45	19		
P173	G6-29	G6-28	円形	39	38	16	土器：第Ⅲ群2613g	
P174	G6-30	G6-49	楕円形	50	32	16	土器：第Ⅲ群7615g、第Ⅳ群1040g 重：77.70g	
P175	G6-31	G6-49	円形	37	30	10	土器：第Ⅲ群2158g 重：5.84g	
P176	G6-37	G6-19	楕円形	76	48	17	土器：第Ⅲ群5327g 石器：剥片1点0.26g 重：90.95g	
P177	G6-38	G6-39	長楕円形	69	31	15		
P178	G6-39	G6-39	楕円形	61	44	11		
P179	G6-47	G6-04	円形	34	29	9		
P180	G6-48	G6-14	円形	65	56	29	土器：第Ⅲ群112.35g、第Ⅳ群5.75g 重：76.09g 重：190.00g	
P181	G6-49	G6-05	楕円形	45	35	34		
P182	G6-50	G6-05	楕円形	37	28	8		
P183	G6-51	G6-14	円形	54	50	21	土器：第Ⅲ群7922g 重：29.82g	
P184	G6-52	G6-14	円形	53	46	19	土器：第Ⅲ群13.88g 重：5.93g	
P185	G6-53	G6-14	楕円形	62	48	29	土器：第Ⅲ群31.00g、第Ⅳ群4.87g 重：135.33g	
P186	G6-54	G6-15	円形	38	31	29		
P187	G6-55	G6-15	円形	57	51	23	土器：第Ⅲ群2021g 重：145.56g	
P188	G6-58	G6-15	円形	29	25	5		
P189	G6-57	G6-06	楕円形	94	67	17	土器：第Ⅲ群6626g、第Ⅳ群0.94g 重：22.88g	
P190	G6-58	G6-05	円形	42	38	17	土器：第Ⅲ群1957g 重：129.00g	
P191	G6-59	G6-05	楕円形	34	28	14		
P192	G6-60	G6-04	円形	46	38	15	土器：第Ⅲ群137g	
P193	G6-69	G6-07	円形	38	37	14	土器：第Ⅲ群0.49g	
P194	G6-70	G6-06	楕円形	40	29	14	土器：第Ⅲ群35.62g 重：3.49g	
P195	G6-71	G6-16	長楕円形	106	55	26	土器：第Ⅲ群122.93g、第Ⅳ群329g 重：317.84g	
P196	G6-72	G6-05	円形	37	33	16		
P197	G6-73	G6-03	楕円形	87	62	35	土器：第Ⅲ群104.02g 重：266.03g	
P198	G6-74	G6-13	円形	70	57	29		
P199	G6-75	G6-03	円形	35	29	12	土器：第Ⅲ群73.5g 重：3.24g	
P200	G6-76	G6-04	楕円形	-	-	24	土器：第Ⅲ群3772g 重：92.95g	
P201	G6-77	G6-04	円形	69	59	19	土器：第Ⅲ群5487g 重：131.85g	
P202	G6-82	G6-14	楕円形	99	76	21		
遺物名	出発地名	直置	平面形	長軸	短軸	深さ	出土遺物	直位
P203	G6-61	G6-67	不定形	126	-	8	土器：第Ⅲ群12.27g 重：92.95g	
P204	H6-1	H6-91	楕円形	76	62	29	土器：第Ⅲ群11.5g、第Ⅳ群0.91g 重：78.94g	
P205	H6-2	H6-82	円形	49	46	20	土器：第Ⅲ群20.5g 石器：剥片1点0.25g 重：74.81g	
P206	H6-3	H6-81	円形	59	-	14	土器：第Ⅲ群44.45g 石器：剥片1点1.39g 重：58.40g	
P207	H6-4	H6-61	長楕円形	64	43	11	土器：第Ⅲ群21.71g、第Ⅳ群0.85g	
P208	H6-5	H6-72	不定形	90	74	25	土器：第Ⅲ群42.05g 石器：剥片1点0.18g 重：105.14g	
P209	H6-6	H6-63	円形	58	53	20	土器：第Ⅲ群34.32g 石器：剥片2点0.40g 重：117.7g	
P210	H6-7	H6-62	円形	38	36	15	土器：4.51g	
P211	H6-8	H6-61	円形	51	44	20	土器：第Ⅲ群18.21g 重：91.45g	
P212	H6-9	H6-70	楕円形	101	89	31	土器：第Ⅲ群19.84g、第Ⅳ群8.11g 石器：剥片1点0.99g 重：73.77g	
P213	H6-10	H6-70	円形	-	-	27	土器：6.1g	
P214	H6-11	H6-51	円形	53	52	20	土器：第Ⅲ群36.8g、第Ⅳ群0.728g 重：36.69g	
P215	H6-12	H6-51	不定形	97	75	21	土器：第Ⅲ群4.37g 重：15.92g	
P216	H6-13	H6-90	円形	53	51	19		
P217	H6-14	H6-62	円形	42	30	10	土器：第Ⅲ群6.54g 重：3.2g	
P218	H6-15	H6-62	円形	33	28	17	石器：剥片1点1.53g 重：9.54g	
P219	H6-16	H6-61	円形	44	37	15	土器：第Ⅲ群15.46g 石器：剥片1点0.26g 重：75.25g	
P220	H6-17	H6-80	円形	85	84	23	土器：第Ⅲ群64.88g、第Ⅳ群3.0g 重：194.31g	
P221	H6-18	H6-81	円形	30	28	35	土器：5.001g	
P222	H6-19	H6-63	円形	42	35	61		
P223	H6-6	H6-20	楕円形	46	35	19		
P224	H6-71	H6-10	円形	46	43	21		
P225	H6-2	H6-22	長楕円形	-	-	29	24	土器：第Ⅲ群10.54g
P226	H6-3	H6-23	円形	53	49	14	土器：第Ⅲ群20.65g、第Ⅳ群3.91g	
P227	H6-4	H6-12	楕円形	85	63	23	土器：第Ⅲ群32.55g、第Ⅳ群3.80g 重：723.09g	
P228	H6-5	H6-02	円形	45	44	20		
P229	H6-6	H6-26	円形	41	40	28		
P230	H6-7	H6-27	楕円形	52	45	10		
P231	H6-8	H6-01	楕円形	55	37	12	土器：10.150g	
P232	H6-9	H6-18	円形	59	58	28	土器：第Ⅲ群51.72g 重：147.77g	
P233	H6-10	H6-20	円形	36	32	29		
P234	H6-11	H6-69	長楕円形	98	81	22	土器：第Ⅲ群20.50g、第Ⅳ群4.67g 重：481.51g	
P235	H6-12	H6-00	不定形	88	82	25	土器：第Ⅲ群3.48g	
P236	H6-13	H6-91	楕円形	82	60	22	土器：第Ⅲ群13.03g、第Ⅳ群5.94g 石器：剥片1点0.31g 重：313.2g	
P237	H6-22	H6-20	円形	34	32	16	土器：第Ⅲ群85.0g、第Ⅳ群12.0g 重：101.03g 重：381.37g	
P238	H6-22	H6-30	楕円形	70	56	26	土器：第Ⅲ群382.59g	
P239	H6-33	H6-20	楕円形	46	36	23	土器：第Ⅲ群146.15g 重：89.45g	
P240	H6-34	H6-30	楕円形	63	50	23	土器：第Ⅲ群80.54g、第Ⅳ群9.32g 重：221.27g	
P241	H6-35	H6-31	楕円形	94	68	21	土器：第Ⅲ群15.74g、第Ⅳ群0.42g 重：16.013g 重：287.97g	
P242	H6-46	H6-43	楕円形	-	-	15	土器：第Ⅲ群37.8g、第Ⅳ群19.40g 石器：剥片1点0.17g	
P243	SX001	G6-97	楕円形	-	-	12	土器：第Ⅲ群425.93g、第Ⅳ群24.38g 重：576.00g	
P244	SX002	G6-16	不定形	-	-	149	土器：第Ⅲ群1421g、第Ⅳ群111g 重：238.82g 重：1616.87g、剥片1点1.21g 重：1223.75g	

## (5) 遺構外出土遺物

### A. 土器

土器は91,601.26 g出土した。大部分が破片資料であり、器形復元可能なものはなかった。出土土器は、縄文土器(90,085.65 g、98.35%)が大半を占め、それ以外は土師器(第IX群)(10.37 g、0.01%)と時期不明・碎片(第X群)(1,505.24 g、1.64%)がわずかに出土する。縄文土器は、早期(第I~V群)(90,018.84 g、99.92%)、早期末から前期前半(第VI群)(15.20 g、0.02%)、前期末から中期初頭(第VII群)(51.61 g、0.06%)であり、早期のものがほとんどを占める。また、早期縄文土器の内訳は、撚糸文系(第I群)(350.39 g、0.39%)、沈線文系(第II群)(89,318.70 g、99.22%)、押型文系(第III群)(280.91 g、0.31%)、繊維入無文(第IV群)(68.84 g、0.08%)で、沈線文系がほとんどを占める。土器は調査区全域から出土しており、その中でも調査区北部からまとまって出土している。撚糸文系・押型文系は出土数は少ないが、撚糸文系は調査区北西部、押型文系は調査区北部から比較的まとまって出土している。沈線文系は調査区全域から出土しているが、特にG6グリッド北部からまとめて出土している。

出土土器は、「大別型式(群)」に分類し、その中で更に細分できるものについては「細別型式(施文方法(類))」という形で分類した。なお、細別形式(類)の%は同群内の重量の割合を示す。

#### 第I群 撥糸文系(第15図1~10)

1は口縁部片、2~10は胴部片である。1の口縁部はわずかに肥大し、直上する。口縁部下には縦位の撚糸文rが施される。2~6は撚糸文r、7は撚糸文Iが縦位に施される。施文は2~6は比較的密に行われるが、7は疎らである。8は非常に細かく密な撚糸文rが横位に施される。9は単節縄文L R、10は無節縄文Rが斜位に施される。

#### 第II群 沈線文系

##### 第1類 帯状格子目文(第15図11~17)(2,290.56 g、2.56%)

11~12は口縁部片、13~17は胴部片である。11の口唇部は尖頭状を呈し、口縁部直下に横位沈線施文後、帯状格子目文が鋸歯状に施される。12の口唇部は内削ぎ状を呈し、口縁部下に横位・斜位に沈線文を施文後、斜位に帶状格子目文が施される。13~14は横位沈線文区画内に帶状格子目文が鋸歯状に施される。本類は、帯状格子目文の幅が狭く、多段平行沈線文間の施文の三戸2式、帯状格子目文の幅が広く、幅広の平行沈線文間の施文の三戸3式と推測する。

##### 第2類 沈線文+刺突文(第15図18~32)(2,167.62 g、2.43%)

18~25は口縁部片、26~32は胴部片である。18の口唇部は角頭状を呈し、口縁部直下に3個1単位の耳状突起を有する。口縁部直下から3段の横位三角形刺突文、横位沈線文、横位三角形刺突文が施される。口縁部直下の刺突文は、耳状突起貼付け後に施される。胎土に小礫を多く含む。19の口唇部は内削ぎ状を呈し、口縁部下には3条1単位の横位沈線文3段間に角状工具による刺突文が施文され、その下に押引文が斜位に施される。20の口唇部は角頭状を呈し、口縁部下に横位沈線文区画内に上から格子目文、3段の刺突文が施される。21の口唇部は内削ぎ状を呈し、口縁部下に横位沈線文が施される。沈線文間に半裁竹管による刺突文が施される。22~23の口唇部は角頭状を呈し、22は口縁部直下に、23は横位沈線文間に三角形刺突文が施される。24の口唇部は尖頭状を呈し、口縁部直下に2段の刺突文が横位に施される。その下に2段の横位沈線文が施文され、沈線文間に斜位沈線文が鋸歯状に施される。25の口唇部は角頭状を呈し、口縁部直下に半裁竹管による刺突文が施される。26~27は横位多段の平行沈線区画間に刺突文が施される。26の文様構成は21と類似する。28は3条1単位の平行沈線文で構成され、横位の沈線文施文後に斜位の沈線文が施される。斜位沈線文間に半裁竹管による刺突文が施される。29は斜位の沈線文施文後に縦位の沈線文が施される。斜位沈線文間に三角形刺突文が施される。30は角状工具による刺突文施文後に横位の沈線文が施される。31は斜位沈線文間に3段の刺突文が施される。共に半裁竹管による施文であるが、上部2段は小型の半裁竹管、下部1段は大型の半裁竹管により施される。32は3条1単位の斜位・横位平行沈線文間に半裁竹管による刺突文が施される。本類はすべて細い沈線文で構成される。本類は横位

多段の沈線文間に斜位沈線文、格子目文、刺突文を施す三戸2式が主体と推測する。

#### 第3類 細沈線文（第16図33～45）(4,729.61g、5.30%)

33・34は口縁部片、35～42は胴部片、43～45は底部片である。33の口唇部は丸頭状を呈し、横位の沈線文施文後、斜位の沈線文が鋸齒状に施される。補修孔を有する。34の口唇部は内削ぎ状を呈し、横位の沈線文が施される。35は横位の沈線文が施される。36・37は格子目文が施される。38は横位の沈線文下に斜位の沈線文が乱雜に施される。39は6条1單位の平行沈線文が鋸齒状に施される。40は4～5条1單位の平行沈線文が横位・斜位に施される。41・42は底部付近と思われる。41は横位の沈線文間に縦位の沈線文が施される。42は上部は太い沈線文が斜位に施文され、下部は細い沈線文による帯状斜線文が2段施される。43・44は尖底であり、所謂乳房状を呈する。44の器厚は薄く、胎土は灰白色を呈し、他の土器と様相が異なる。45は平底である。底部直上に3条の沈線文を施文し、その上部に斜位の沈線文が施される。本類は、横位沈線区画内に格子目文や平行沈線文が施される三戸1式から三戸2式が主体と推測する。

#### 第4類 太沈線文（第16図46～63、第17図64～71）(45,976.58g、51.47%)

46～61は口縁部片、62～71は胴部片である。46・47の口唇部は角頭状を呈し、口縁部直下には、縦位短沈線文帯が施される。縦位短沈線文帯下に、46は横位の細沈線文、47は格子目文が施される。48の口唇部は外削ぎ状を呈し、口縁部直下に斜位短沈線文帯が施される。49・50の口唇部は角頭状を呈し、口縁部下に格子目文が施文される。50は内面に横位のナデ調整の痕跡を残す。51の口唇部は角頭状を呈する。口縁部直下に横位の沈線文を施文し、その下に斜位の沈線文が施される。52の口唇部は角頭状を呈し、口縁部直下に縦位短沈線文帯が施される。46や47と類似の文様構成と推測する。53～55は横位の沈線文が施文され、口唇部は53が内削ぎ状、54・55が角頭状を呈する。55は一部格子目になるように薄い斜位沈線文が施される。56・57は口縁部直下に横位の短沈線文が施文され、口唇部は56が角頭状、57が内削ぎ状を呈する。56は補修孔を有する。58の口唇部は内削ぎ状を呈し、口縁部下に斜位の沈線文が施される。器厚は薄い。59の口唇部は角頭状を呈し、斜位の沈線文が施される。補修孔を有する。60の口唇部は内削ぎ状を呈し、刻目文が施される。口縁部下には斜位の沈線文が施される。61の口唇部は角頭状を呈し、細い沈線により格子目文が施される。口縁部下は横位の沈線文が施される。62は格子目文が施される。63は鋸齒状に沈線文が施される。64は横位の沈線文が密に施される。65は斜位の短沈線文が施される。66・67は斜位の沈線文が施文され、66はやや乱雜に施される。68・69は横位沈線文間に短沈線文（刺突文か）が施される。70は矢羽状に沈線文が施される。71は斜位の沈線文が施される。本類は三戸式から田戸下層式で構成される。

#### 第5類 貝殻腹縁文（第17図72～75）(13.43g、0.02%)

72～75は胴部片である。72は斜位の条痕文施文後に縦位の貝殻腹縁文が施される。73は斜位の貝殻腹縁文が施される。矢羽状だろうか。74・75は横位の貝殻腹縁文が施される。本類は小片資料のみではあるが、三戸2式以降と推測する。

#### 第6類 貝殻背圧痕文（第17図76～83）(215.23g、0.24%)

76は口縁部片、77～83は胴部片である。76の口唇部は角頭状を呈し、口縁部直下に耳状突起を有する。貝殻背圧痕文は疎らに施される。77は横位の沈線文下に貝殻背圧痕文が疎らに施される。78は貝殻背圧痕文を密に施文後、横位の沈線文が施される。79は縦位の円形刺突文間に貝殻背圧痕文が密に施される。80は密に、81・82は疎らに貝殻背圧痕文が施される。82は縦位帶状に施される。83は底部付近と思われる。貝殻背圧痕文は疎らに施される。76に見られる耳状突起は三戸2式、細久保1式以降に見られることから、本類も同時期のものであろうか。

#### 第7類 刺突文（第17図84～90）(658.87g、0.74%)

84～86は口縁部片、87～90は胴部片である。口縁部片の口唇部は、84が内削ぎ状、85が尖頭状、86が角頭状を呈する。85は口唇部に刻目文が施される。87はヘラ状工具、それ以外は半裁竹管による刺突文である。半裁竹管による刺突文のうち、86・90は外側竹管、それ以外は内側竹管である。90は底部付近と思われる。本類は、刺突文自体で土器全体の文様を構成することは考え難く、沈線文とで構成される三戸式か

ら田戸下層式と推測する。

#### 第8類 条痕文（第17図91～97、第18図98～105）(14,238.46 g、15.94%)

91～98は口縁部片、99～102は胴部片、103～105は底部片である。口縁部片の口唇部は、91～94が角頭状、95・96が丸頭状、97が尖頭状、98が内削ぎ状を呈する。102は底部付近と思われる。103・104は尖底を呈するが、103は所謂天狗の鼻状に近い形状である。105は先端部が欠損しているが、尖底と思われる。91～93・95・102は斜位、97・98・100・103・104は横位、99・105は縦位、96・101は格子目状に条痕文が施される。94は口縁部直下に横位の条痕文を施し、その下に斜位の条痕文が施される。91は内上面部に横位の擦痕を残す。92は内面に横位ナデ調整がよく残る。102～104は、底部付近に無文帶を有する。本類は三戸式が主体と推測する。

#### 第9類 無文（第18図106～114）(19,028.34 g、21.30%)

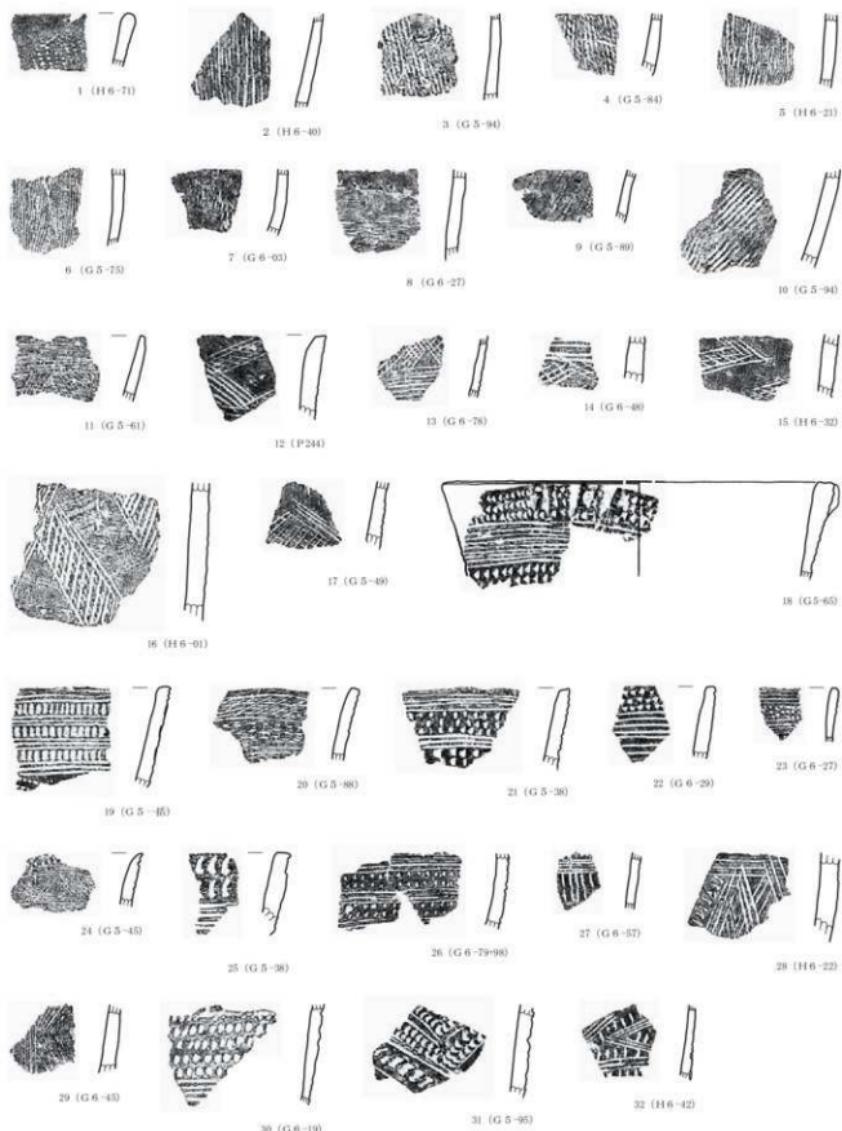
106～109は口縁部片、110～114は底部片である。106～109の口唇部は丸頭状を呈する。107・109は縦位に粗いケズリ整形が施される。108は外外面に擦痕を残す。109は補修孔を有する。110は平底、111～114は尖底を呈する。110は内外面ともに赤褐色であり、外表面・底部ともに細かなナデ調整が施される。111は尖底部付近に輪積痕が確認でき、114は輪積痕に沿って剥離したものと思われる。112は縦位の細かなケズリ整形が施される。107・109・112は外表面のケズリ整形から撚糸文期平板式の可能性もあるが、本遺跡出土沈線文期土器の胎土に類似することから、本群に分類した。本類は分類上、施文がないため、三戸式、田戸下層式、田戸上層式の区分は難しい。ただ、底部において天狗の鼻状のものがないことから、三戸式のものだろうか。

#### 第III群 押型文系（第18図115～133）

115～121は口縁部片、122～133は胴部片である。口縁部片の口唇部は、115～117・121が丸頭状、118～120が角頭状を呈する。121は口唇部に刻目文が施される。115～120・122～128は山形の押型文が施文される。115～119・122～126・128は横位、120・127は縦位に施される。121・129～132はポジティブな梢円形の押型文が施文される。121・129～131は横位、132は縦位に施される。133は上面に横位のポジティブな梢円形、下部に横位の山形の押型文が施される。117・119は口唇部直下に無文帶を有する。128は半裁竹管による刺突文が施される。116は胎土に小穢、121～124・129・131は胎土に金雲母を含む。本類は小片資料のみであるが、押型文間の無文帶へ刺突文施文のものや異種原体横位施文のものを含むことから細久保1・2式と推測する。

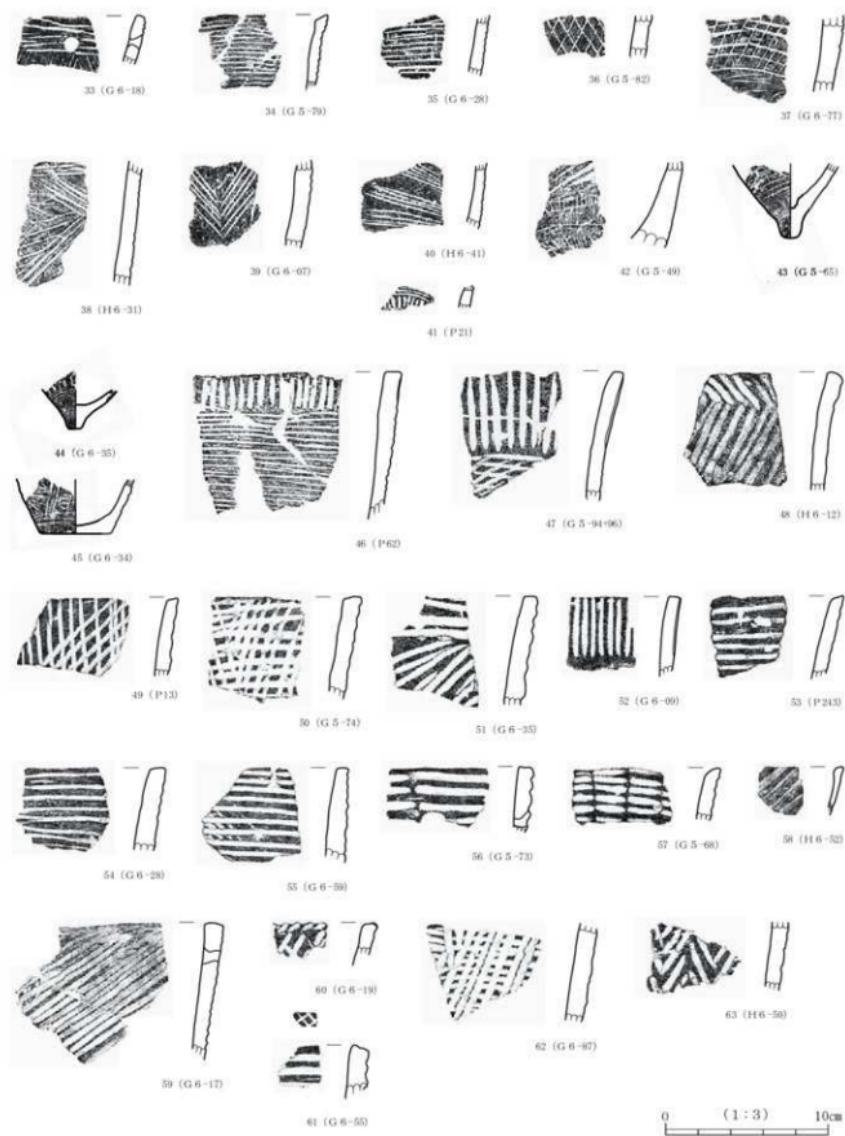
#### B. 土偶（第22図）

1は早期中葉沈線文期の土偶である。両腕部が欠損しているが、ほぼ完形の状態である。形状はバイオリン形で、頭部状突起を有する。胴部は、上部と下部に分かれて出土した。胴上部はG 6-15グリッド、胴下部はP 180からの出土である。出土地点は隣接しており、意図的に破損させてから廃棄しているかは不明である。最大長6.0 cm、胴下部の最大幅2.9 cm、最大厚0.9 cm、重量15.52 gである。欠損する両腕部の幅は胴下部よりも広がるものと思われる。文様は表裏面ともに施される。表面は、頭部状突起に沈線文、胴部に刺突文が施される。頭部状突起の沈線文は、上端に1条、下端に2条の横位の沈線文を施し、横位沈線文間に斜位の沈線文が施される。胴上部にある横位の5か所の刺突文のうち、中心の1か所は不明であるが、左側の2か所は左上から、右側の2か所は右上から刺突される。右側の2か所と左側2か所・中央1か所は傾きが異なっており、連続して刺突されたものではないと推測する。胴上部から下部にかけての縦位の刺突文はほぼ真上からの刺突である。裏面には、全面に薄く細い沈線文が施される。表裏面ともほぼ平坦であるが、表面の両腕中央部は若干窪む。胴上部と下部の割れ口より、芯棒の痕跡は確認できなかった。2は土版状の土製品であり、丁寧な成形で、細かな沈線文が施されることから、土偶と判断した。部位・形状は不明である。最大厚は1.9 cmであり、全面においてほぼ一定である。文様は表面のみ確認でき、欠損していない縁辺に沿って沈線文が施文され、そこから2条の帯状格子目文が斜位に施される。三戸式期の所産だろうか。

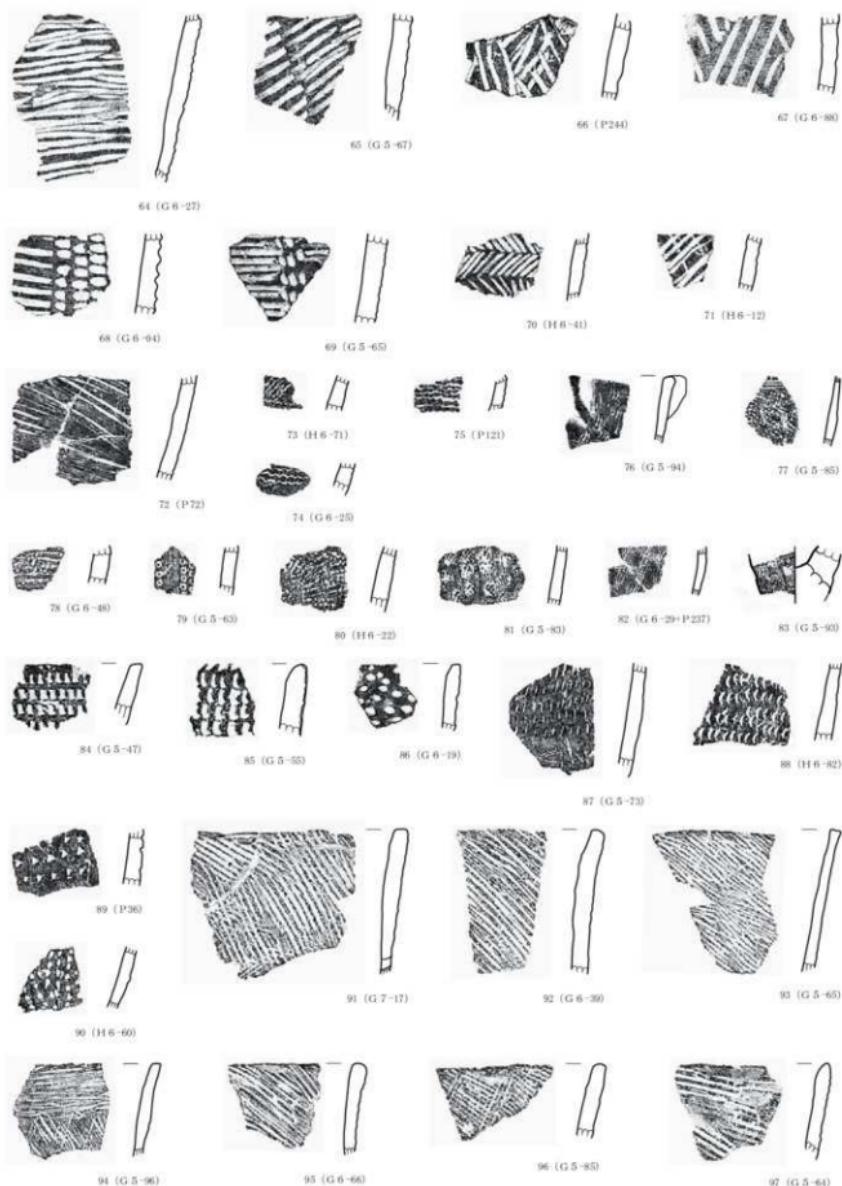


0 (1 : 3) 10cm

第15図 縄文土器①

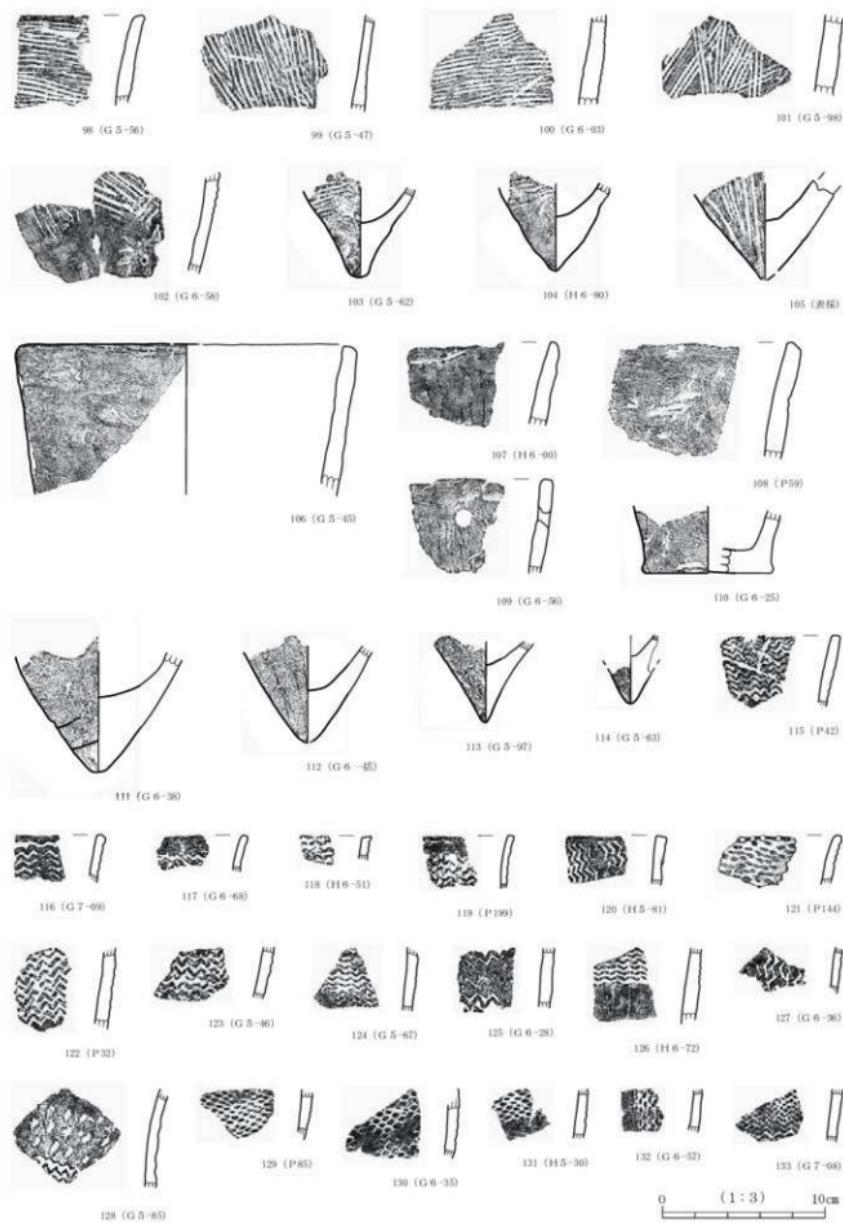


第 16 図 繩文土器②

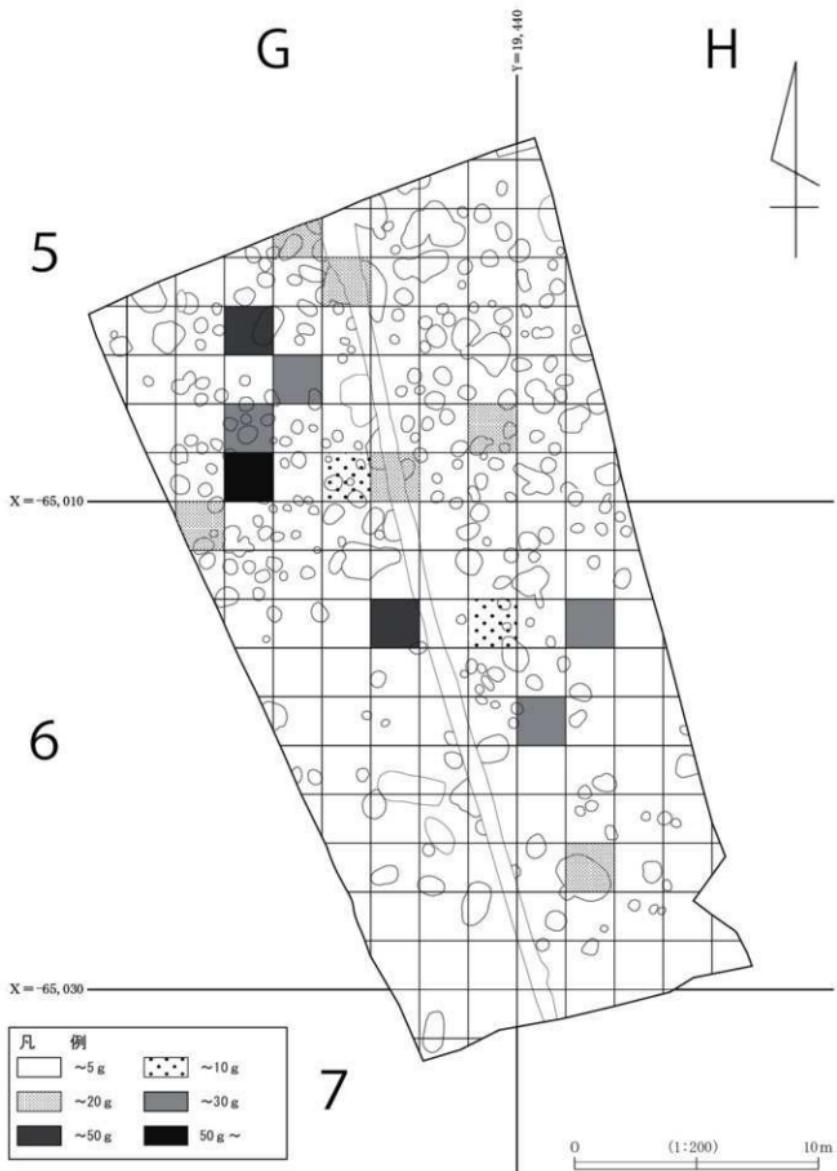


0 (1 : 3) 10cm

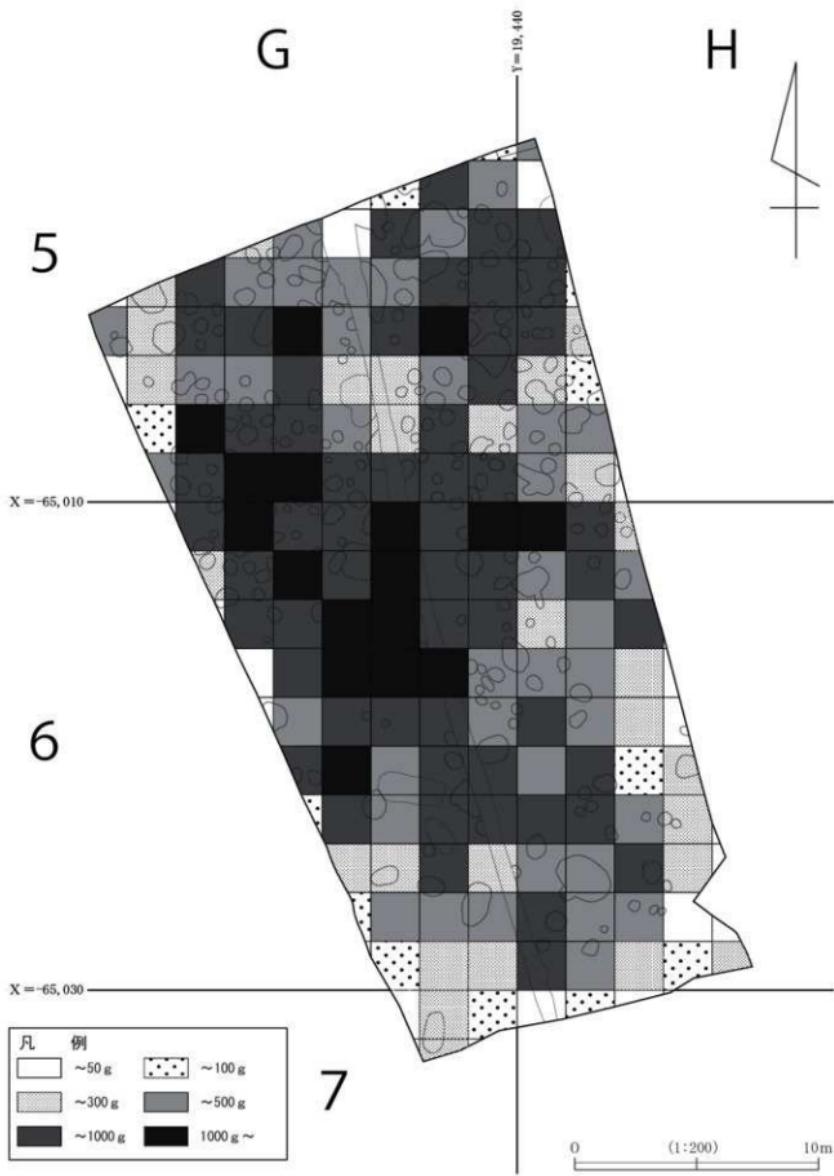
第17図 繩文土器③



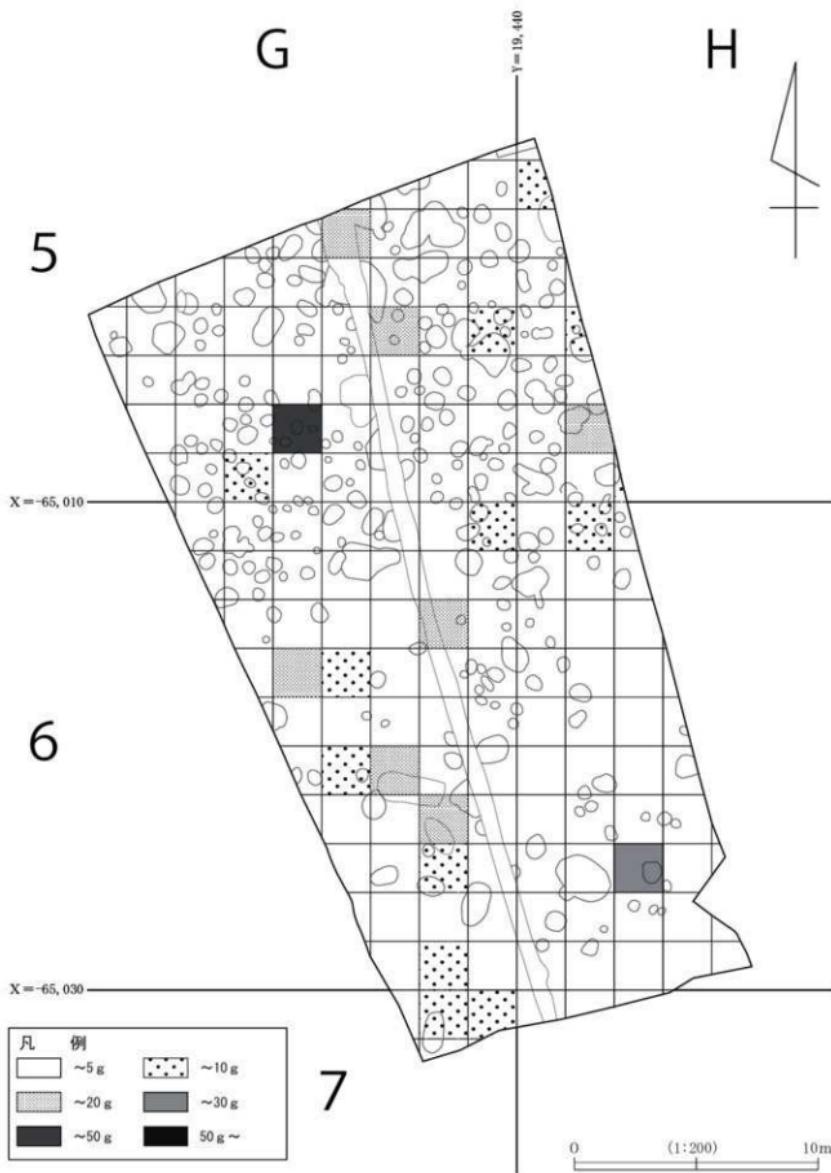
第18図 繩文土器④



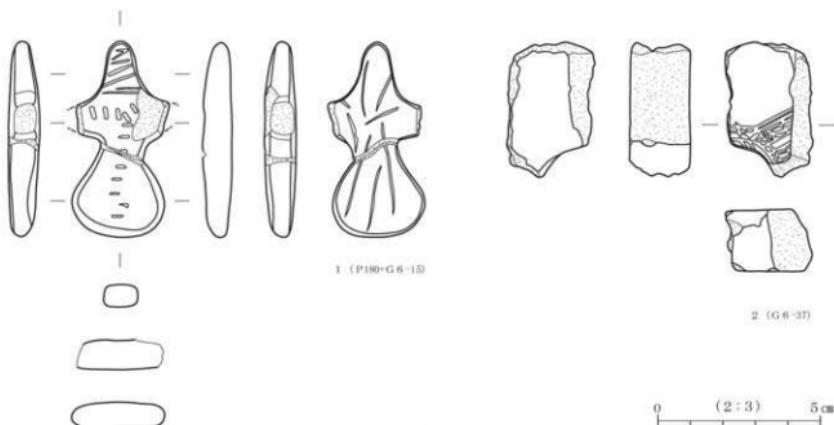
第19図 繩文土器出土状況（第I群）



第20図 繩文土器出土状況（第II群）



第21図 繩文土器出土状況（第III群）



第22図 土偶

### C. 磨 (第23図)

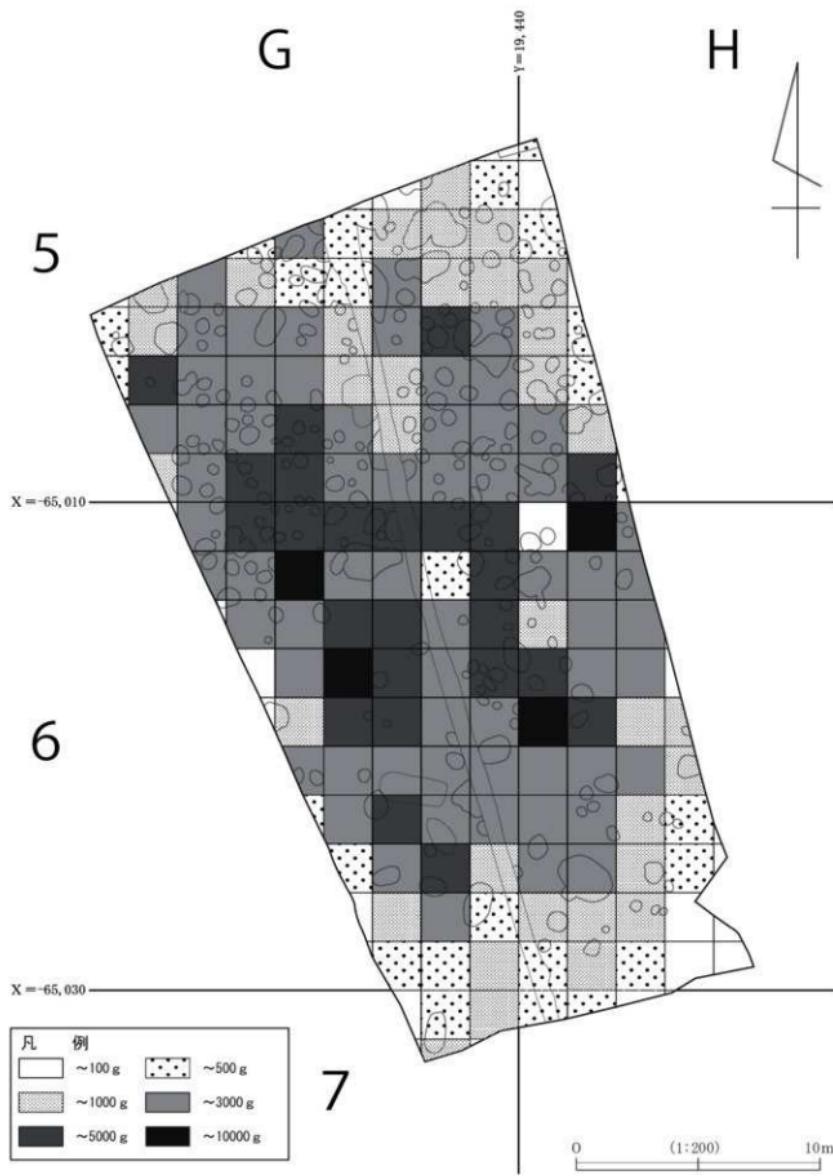
磨は調査区全域より出土しており、分布傾向は見られず、礫群等も確認できなかった。出土磨は、石材・遺存状況で分類した。石材については、過去の発掘調査で出土した磨の分類サンプルを利用し、分類を行った。遺存状況に関しては、完形（一部欠損でも全体形状が把握できるものも含む）と欠損で分類した。また、完形のものについては大きさで細分した。

磨は8,217点、270,725.27 g出土した。石材は重量比で見ると、砂岩 117,290.83 g (43.3%)、流紋岩 60,982.21 g (22.5%)、チャート 57,310.05 g (21.2%)、凝灰岩 13,084.94 g (4.8%)、ホルンフェルス 12,897.59 g (4.8%)、安山岩 5,862.19 g (2.2%)、頁岩 2,022.63 g (0.7%)、その他 1,274.83 g (0.5%)であり、砂岩の出土量が特出している。遺存状況は個数比で見ると、完形 908点(11.1%)、欠損 7,309点(88.9%)であり、欠損しているものが圧倒的に多い。被熱については、判断が困難であり、個体数も多いことから今回は分類をしなかった。完形のものの大きさは3 cm未満が49点(5.4%)、3 cm以上5 cm未満が381点(42.0%)、5 cm以上7 cm未満が391点(43.1%)、7 cm以上10 cm未満が83点(9.1%)、10 cm以上が4点(0.4%)であり、3 cm以上7 cm未満のものが圧倒的に多く、10 cmを超えるものはほとんどなかった。

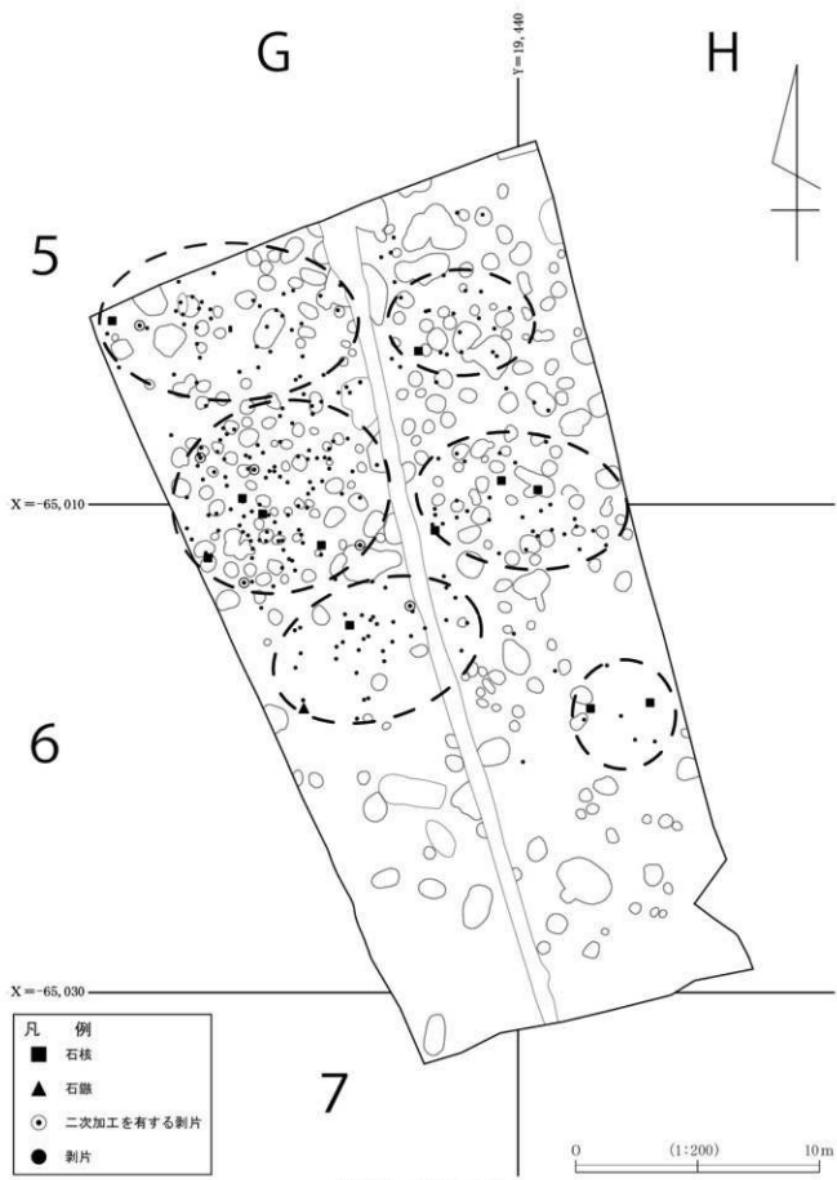
### D. 石器 (第24・25図)

石器は429点、5,022.12 g出土した。内訳は石鏃(未成品含む)5点 6.51 g、二次加工を有する剥片7点 18.15 g、石核16点 124.11 g、剥片383点 421.84 g、磨石類14点 3,943.26 g、礫器3点 485.42 g、軽石製品1点 22.83 gである。磨石類・礫器以外はすべて黒曜石製である。黒曜石製品は可能な限り出土位置を記録した(第24図)。出土位置は調査区中央から北部に集中しており、いくつかのブロックを形成する。特にG5・G6グリッドの境界付近からは、複数の石核、二次加工を有する剥片、多数の剥片が出土しており、石器製作が行われていた可能性が高い。

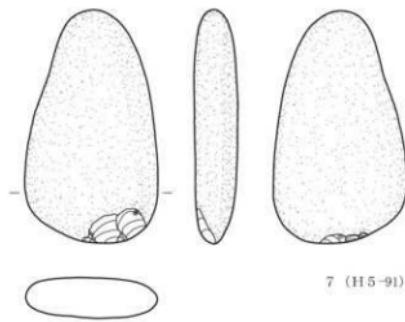
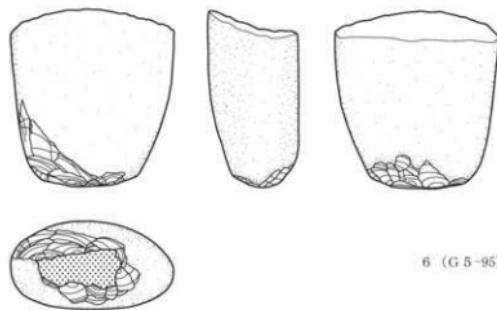
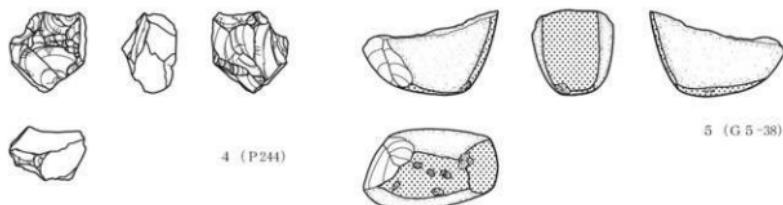
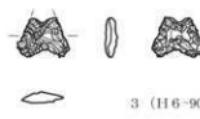
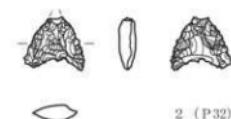
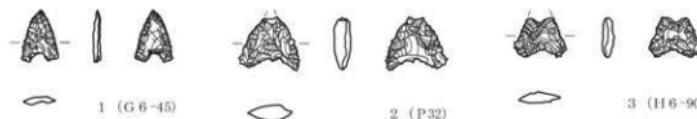
1～3は石鏃であり、黒曜石を素材とする。すべて回基である。いずれも白色の混入物を含む。2・3は先端部が欠損する。4は黒曜石の石核である。打面転移を繰り返し、各縁辺から大小の剥片が剥離される。白色の混入物を含む。5・6は磨石類であり、砂岩製の扁平礫を素材とする。下面や側面に敲打や研磨痕を残す。下面からの剥離は敲打の際に生じたものと推測する。7は礫器であり、ホルンフェルス製の扁平礫を素材とする。素材礫の形状をそのまま生かし、下面がわずかに剥離する。



第23図 硬出土状況



第24図 石器出土状況



■ 敲打・研磨痕

0 (1~3)  
(2:3) 5cm

0 (4~7)  
(1:2) 10cm

第25図 石器

第4表 土器重量表（小グリッド別）①

第5表 土器重畠表(小グリッド別)②

通帳名	著者 著者文系	著者 著者文系	第II群 次世文系			第IV群 中世系	第V群 後世系	第VI群 近世系	第VII群 明末~ 朝鮮期	第VIII群 中期粉	第IX群 後期粉	第X群 不明 未記載	合計	
			次世文+	次世文+	次世文									
G6-05	25.35	3.73	566.23	129.84	104.64								31.87	892.46
G6-06	8.20	2.21	25.24	69.15	142.01	76.30							20.00	998.11
G6-07	43.98		43.44	76.70	118.26	121.00							18.78	1295.97
G6-08	94.08	15.74	81.21	389.70	51.80	204.01	121.21						33.95	939.84
G6-09	82.50		49.70	842.43	171.45	261.91	77.73						25.26	1450.29
G6-10													2.79	
G6-11														
G6-12														
G6-13														
G6-14	11.22		103.75	308.14	22.01	149.80	263.04						14.15	880.11
G6-15	149.66	4.30	74.09	904.32	66.44	198.57							33.17	1470.55
G6-16			50.72	704.77	12.59	203.11							9.42	980.62
G6-17			8.53	102.13	6.61	64.78	359.72						21.09	1197.78
G6-18			15.43	43.50	43.25	156.42	148.81						33.95	955.30
G6-19	78.50	23.23	43.33	450.65	15.28	142.44	155.01						14.87	932.47
G6-20														
G6-21	20.15		37.36	265.32	21.74	27.52	213.77						19.72	602.98
G6-22	21.14		25.69	1,257.77	22.00	80.13	32.62						12.63	963.56
G6-23	39.05	37.58	17.48	55.82	847.18	112.95	524.07						37.86	2,242.48
G6-24			9.17	39.83	36.53	3.74	282.34						15.93	1,846.57
G6-25	5.95	74.07	11.39	85.84	309.16	2.55	4.46	139.88	185.61				16.29	870.27
G6-26													13.78	834.69
G6-27													84.24	
G6-28														
G6-29														
G6-30														
G6-31														
G6-32														
G6-33														
G6-34														
G6-35														
G6-36	7.81		23.99	68.88	41.13	545.86	317.37	289.39	8.86				16.19	689.26
G6-37													8.31	1,185.43
G6-38													30.17	1,105.56
G6-39													24.89	1,102.16
G6-40													10.92	453.09
G6-41													11.57	459.81
G6-42														
G6-43														
G6-44														
G6-45														
G6-46														
G6-47														
G6-48														
G6-49														
G6-50														
G6-51														
G6-52														
G6-53														
G6-54														
G6-55														
G6-56														
G6-57														
G6-58														
G6-59														
G6-60														
G6-61														
G6-62														
G6-63														
G6-64														
G6-65														
G6-66														
G6-67														
G6-68														
G6-69														
G6-70														
G6-71														
G6-72														
G6-73														
G6-74														
G6-75														
G6-76														
G6-77														
G6-78														
G6-79														
G6-80														
G6-81														
G6-82														
G6-83														
G6-84														
G6-85														
G6-86														
G6-87														
G6-88														
G6-89														
G6-90														
G6-91														
G6-92														
G6-93														
G6-94														
G6-95														
G6-96														
G6-97														
G6-98														
G6-99														
G6-100														
G6-101														
G6-102														
G6-103														
G6-104														
G6-105														
G6-106														
G6-107														
G6-108														
G6-109														
G6-110														
G6-111														
G6-112														
G6-113														
G6-114														
G6-115														
G6-116														
G6-117														
G6-118														
G6-119														
G6-120														
G6-121														
G6-122														
G6-123														
G6-124														
G6-125														
G6-126														
G6-127														
G6-128														
G6-129														
G6-130														
G6-131														
G6-132														
G6-133														
G6-134														
G6-135														
G6-136														
G6-137														
G6-138														
G6-139														
G6-140														
G6-141														
G6-142														
G6-143														
G6-144														
G6-145														
G6-146														
G6-147														
G6-148														
G6-149														
G6-150														
G6-151														
G6-152														
G6-153														
G6-154														
G6-155														
G6-156														

第6表 土器重量表（小グリット別）③

### III 総括

#### 旧石器時代

旧石器時代の調査範囲はトレンチ1か所のみであったが、第2黒色帶上部層から珪質頁岩製の二次加工を有する剥片が出土した。過去調査においても、南西部の打越岱遺跡(1)(2)からはハードローム層から第1黒色帶間で13点出土し、北西部の打越岱遺跡(3)からは旧石器時代のものと推測される石器が出土することから、本遺跡のはば全城への展開が推測できる。また、今回出土した石器は本遺跡の最も古い段階のものであるが、小櫃川支流松川を挟んだ対岸に位置する文脇遺跡からは更に古い第2黒色帶下部層から石器集中地点が検出されている。松川流域の台地上には旧石器時代の遺跡が少なからず存在しており、時期や広がりについては検討する必要がある。

#### 縄文時代

縄文時代の遺構は、炉穴14基、陥穴2基、土坑16基、ピット244基が検出された。調査区全域から縄文時代早期の包含層が検出されており、遺構も同時期の所産と推測する。遺構の配置は、炉穴・土坑・ピットは調査区北部に密集し、陥穴は調査区南部からの検出である。遺構密度は南部に比べ、北部の方が圧倒的に濃い。調査区南部は遺構密度と同様に出土遺物量も少ないが、北部と南部で出土遺物の時期差は見られなかつた。

打越岱遺跡(1)(2)では燃系文期の堅穴住居、条痕文期主体の炉穴、陥穴、土坑が検出されており、出土土器は早期縄文土器がほとんどを占める。早期縄文土器の内訳は、燃系文系75%、条痕文系15%で、沈線文系はわずかに確認できるだけである。打越岱遺跡(3)では沈線文期から条痕文期にかけての炉穴が検出されており、出土土器は早期縄文土器がほとんどを占める。早期縄文土器の内訳は、燃系文系22%、沈線文系54%、織維入無文14%、条痕文系10%である。打越岱遺跡(1)(2)は遺跡南西部、打越岱遺跡(3)は遺跡北西部にあたり、検出遺構・出土遺物の時期は両地点で異なることが打越岱遺跡(3)発掘調査報告書においても指摘されている。本調査区の早期縄文土器の内訳は、沈線文系が99%を占め、隣接する打越岱遺跡(3)同様に沈線文系が最多である。各地点において差異はあるが、燃系文期は舌状台地南部(打越岱遺跡(1)(2))、沈線文期は舌状台地中央部(打越岱遺跡(3)(4))、条痕文期以降は舌状台地基部(西萩原遺跡)といったおおまかな変遷が窺える。また、本調査区出土沈線文は三戸式から田戸下層式であり、三戸式が主体となると推測される。出土量は少ないが、押型文系の細久保式も出土しており、明確な共伴関係は示すことができないが、両者の関係を考える上で良好な資料といえるだろう。

出土礫については、砂岩(43.3%)・流紋岩(22.5%)・チャート(21.2%)が全体の8割以上を占め、欠損礫は全体の89%を占める。打越岱遺跡(1)(2)における石材の内訳は、チャート(30%)、砂岩(18%)、流紋岩(17%)、欠損礫は全体の72%、打越岱遺跡(3)における石材の内訳は、砂岩(37%)、流紋岩(23%)、チャート(21%)、欠損礫は全体の73%であり、石材の内訳においては遺跡南部と北部で若干の差はあるが、遺跡全体を通じて同様の傾向が見られる。

#### 土偶

本調査区からは、ほぼ完形状態の土偶が見つかった。調査区全域から縄文時代早期沈線文期の土器が出土し、土偶の表裏面に沈線文と刺突文が施されることから、縄文時代早期沈線文期の土偶と推測する。

関東圏における沈線文期の土偶の出土例としては、三戸式期の千葉県庚塚遺跡、埼玉県西大宮バイパスNo.4遺跡、田戸下層式期の千葉県鴨崎貝塚、茨城県二本松遺跡等から出土のものが挙げられる。庚塚遺跡・西大宮バイパスNo.4遺跡出土土偶はバイオリン形の胴下部と推測され、表裏面に帯状格子目文や練杉文が施される。規格はいずれも同規模であり、胴下端からくびれ部までで5~7cm程である。鴨崎貝塚出土土偶はバイオリン形の胴下部と推測され、細い沈線文が施される。規格は、胴下端からくびれ部までで5cm程である。二本松遺跡出土土偶はバイオリン形の胴上部と推測され、円形刺突文が施される。規格は、胴上端からくびれ部まで3cm程である。本市周辺の西上総域における縄文時代早期土偶の出土例は、木更津市宮脇遺跡が

挙げられる。同遺跡出土土偶は早期撫糸文期のものと推測される3cm程の胸上部1点、2cm程の胸下部1点である。共に文様表現は無く、貼付けにより乳房が表現される。その他に、前期の可能性も指摘されるが、5cm程の胸上部も1点出土している。

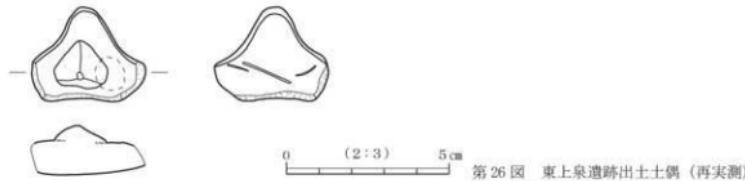
撫糸文期から沈線文期にかけての土偶の規格を、ほぼ完形のものは全長、胸上・下部のみのものは上・下端部からくびれ部までの2倍と鑑みると、撫糸文期のものは3~6cm程の小型、沈線文三戸式期のものは10~14cm程の大型のもの、沈線文田戸下層式期のものは6cm程の小型のものと10cm程の大型のものと推測され、三戸式期以降に大型化した様子が窺える。本遺跡出土土偶は全長6cmで小型のものであり、本遺跡出土沈線文土器は三戸式から田戸下層式に当たる。撫糸文期、田戸下層式期から小型の土偶が出土していることから、類例はないが三戸式期においても継続して小型の土偶が出土してもおかしくなく、本遺跡出土土偶は、出土土器同様に沈線文三戸式期から田戸下層式期のものと考へてよいだろう。

市内における縄文時代早期の土偶については、本遺跡と小櫃川の支流松川を挟んで対岸の台地上に位置する東上泉遺跡出土土偶が挙げられる。報告書では遺存する突起部を左腕部と推測しているが、乳房を表現した貼付けの傍に不自然な瘤みがあることから、その瘤みを乳房を表現した貼付けが剥がれ落ちたものと推測し、本報告書では遺存する突起部を頭部として表記した(第26図)。表面に文様表現は無いが、裏面全面に薄く細い沈線文が施されることから沈線文期の土偶と推測する。胸下部は残存していないが、本遺跡出土土偶とほぼ同規格の小型のものと推測して大きな差はないだろう。同遺跡出土沈線文系土器は田戸下層式を主体とし、三戸式も出土している。本遺跡と東上泉遺跡は、主体を成す土器が三戸式と田戸下層式とで異なるが、両遺跡とも三戸式から田戸下層式の土器が出土することから、両遺跡出土土偶はほぼ同時期のものと推測できる。その場合、両遺跡出土土偶に共通する裏面全体に施される薄く細い沈線文は、同時期もしくは当地域における文様表現の特徴の可能性も考えられる。

以上、本遺跡出土土偶に関する一考察である。出土土器の時期判断が未熟であり、沈線文期土偶の出土類例が少ないとから、推定の域を脱することはできない。いずれにせよ、縄文時代早期沈線文期の土偶については、今後の出土事例を基に慎重に検討する必要があるが、当時期の土偶としてほぼ完形の状態で発見された本遺跡出土土偶が大変貴重な資料であることは間違いない。

#### 参考文献

- 栗田則久他 1987「庚塚遺跡」「東関東自動車道埋蔵文化財調査報告書III」(財)千葉県文化財センター  
領塚正浩 1987「田戸下層式土器細分への覚書」『土曜考古』第12号 土曜考古学研究会  
野口行雄他 1989「打越岱遺跡」(財)君津都市文化財センター  
山本哲也他 1993「木更津市宮脇遺跡出土の撫糸文期の土偶」『研究紀要VI』(財)君津都市文化財センター  
原田昌幸 1995「日本の美術No.345 土偶」至文堂  
土屋治雄他 2007「主要地方道千葉鶴川線埋蔵文化財調査報告書 - 抽ヶ浦市東上泉遺跡・神野台遺跡 - 」  
(財)千葉県教育振興財團文化財センター  
西原崇浩他 2008「打越岱遺跡(3)」抽ヶ浦市教育委員会  
岡本東三 2016「中部押型紋土器をめぐる内外事情 - 「桶沢・細久保式」押型紋文化から沈線紋文化へ - 」  
『駿台史學』第156号 駿台史学会



# 写 真 図 版



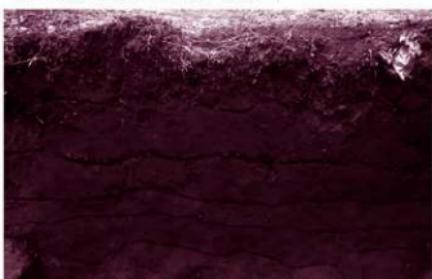
1. 調査前全景（北→）



2. 旧石器時代遺物出土状況（南東→）



3. 基本層序（G 5-53）（南→）



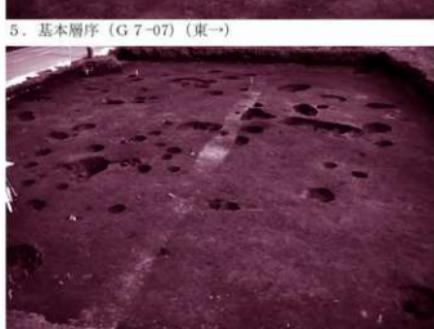
4. 基本層序（G 6-34）（東→）



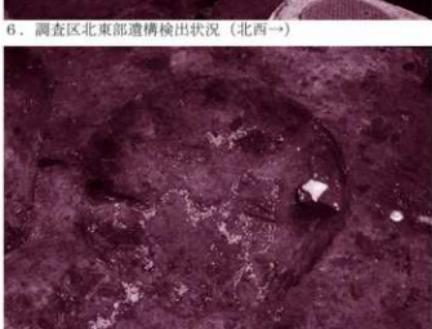
5. 基本層序（G 7-07）（東→）



6. 調査区北東部遺構検出状況（北西→）



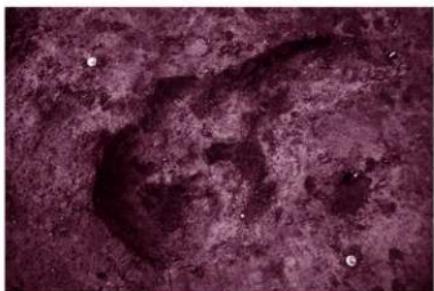
7. 調査区南部遺構検出状況（北→）



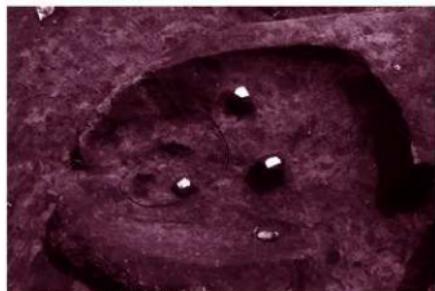
8. F P 048 完据（南東→）



1. F P 049 断面（西→）



2. F P 050 完掘（南→）



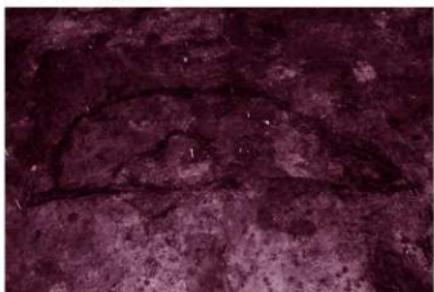
3. F P 051 遺物出土状況（北→）



4. F P 052 完掘（南→）



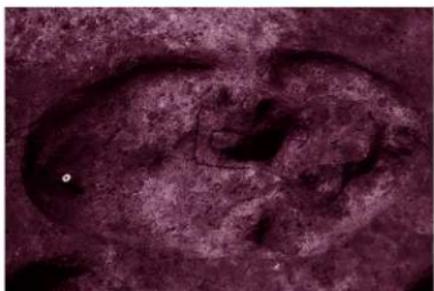
5. F P 053 完掘（南→）



6. F P 054 完掘（南→）



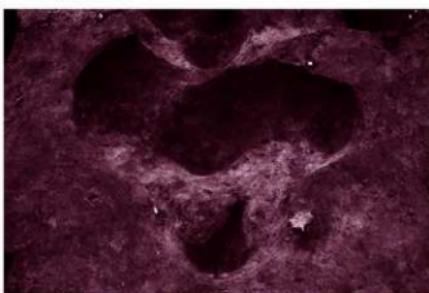
7. F P 055 完掘（南→）



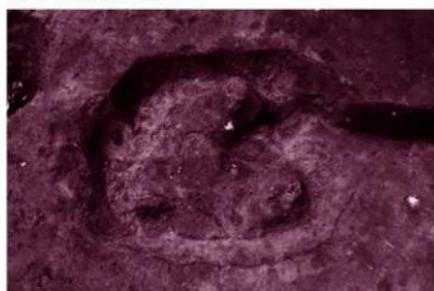
8. F P 056 完掘（東→）



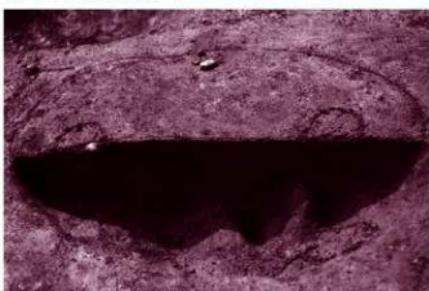
1. F P 058 完掘 (南→)



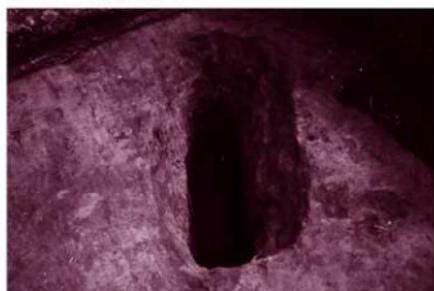
2. F P 059 完掘 (東→)



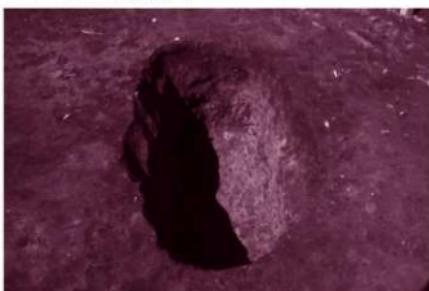
3. F P 060 完掘 (北→)



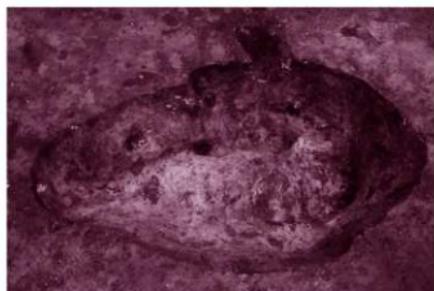
4. F P 061 断面 (南東→)



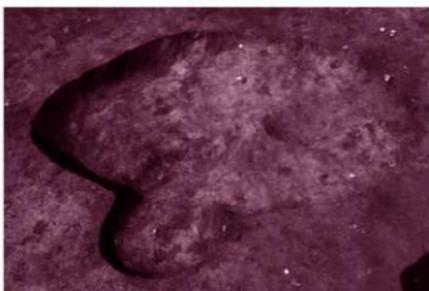
5. T P 005 完掘 (北→)



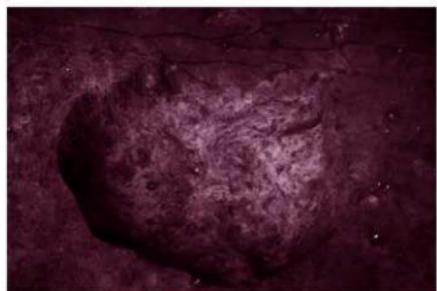
6. T P 006 完掘 (南→)



7. S K 011 完掘 (南西→)



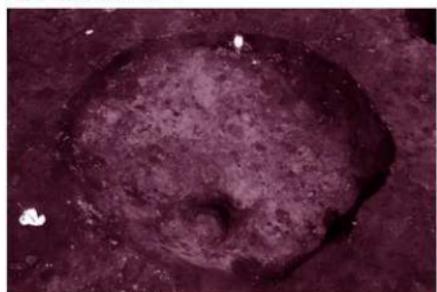
8. S K 012 完掘 (南西→)



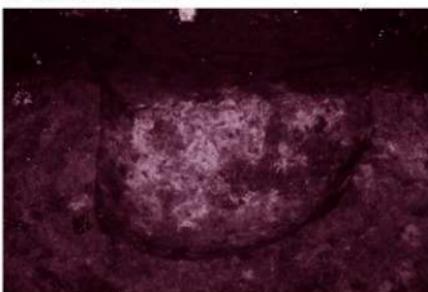
1. SK 013 完掘 (西→)



2. SK 015 断面 (南→)



3. SK 017 完掘 (南→)



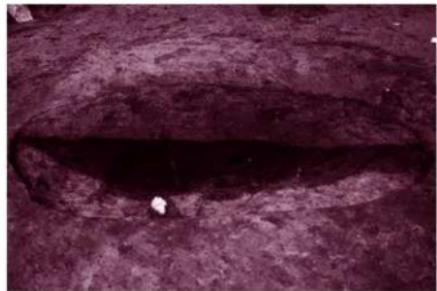
4. SK 019 完掘 (西→)



5. SK 020 完掘 (西→)



6. SK 025 断面 (北東→)



7. SK 026 断面 (南東→)



8. 調査区北東部遺物出土状況 (西→)



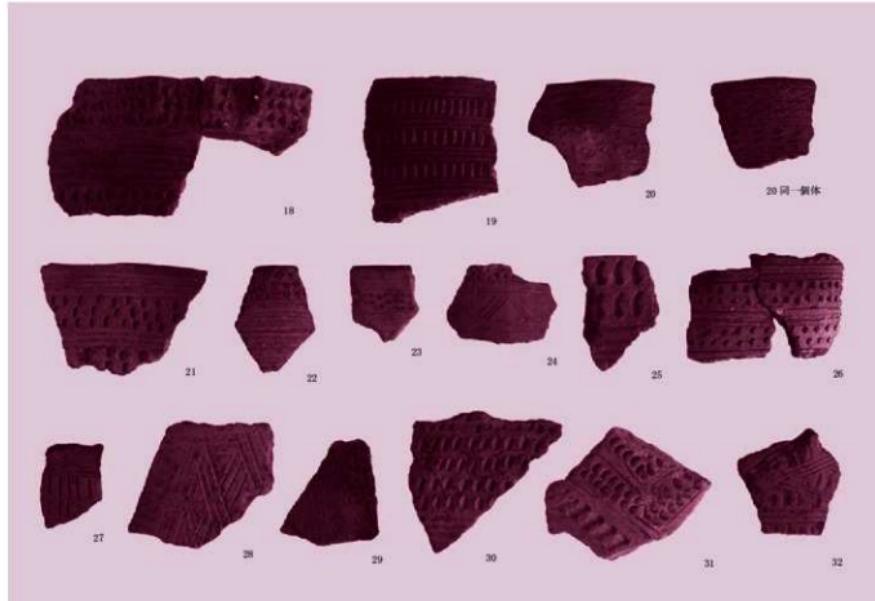
1. 繩文土器（爐穴出土）



2. 繩文土器（陷穴・土坑出土）



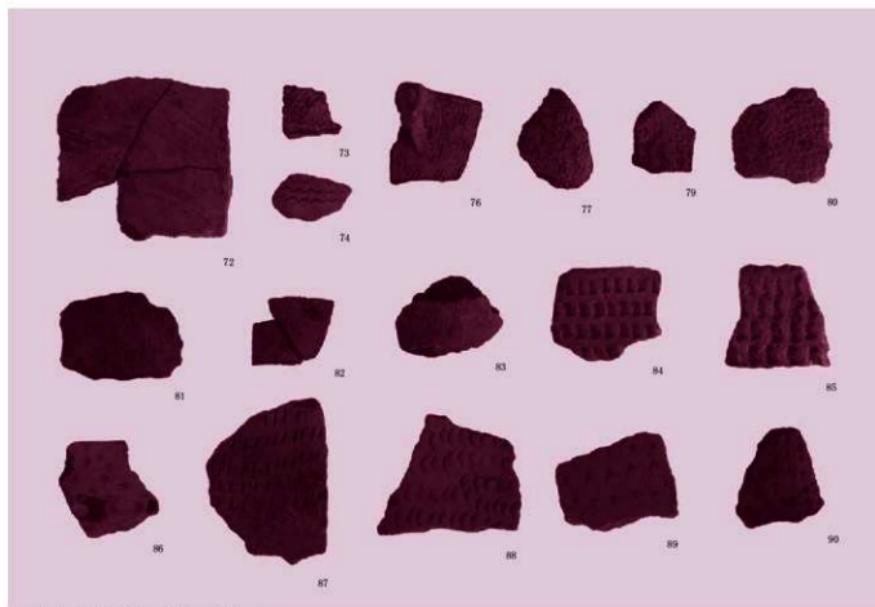
1. 縄文土器（第I群・第II群第1類）



2. 縄文土器（第II群第2類）



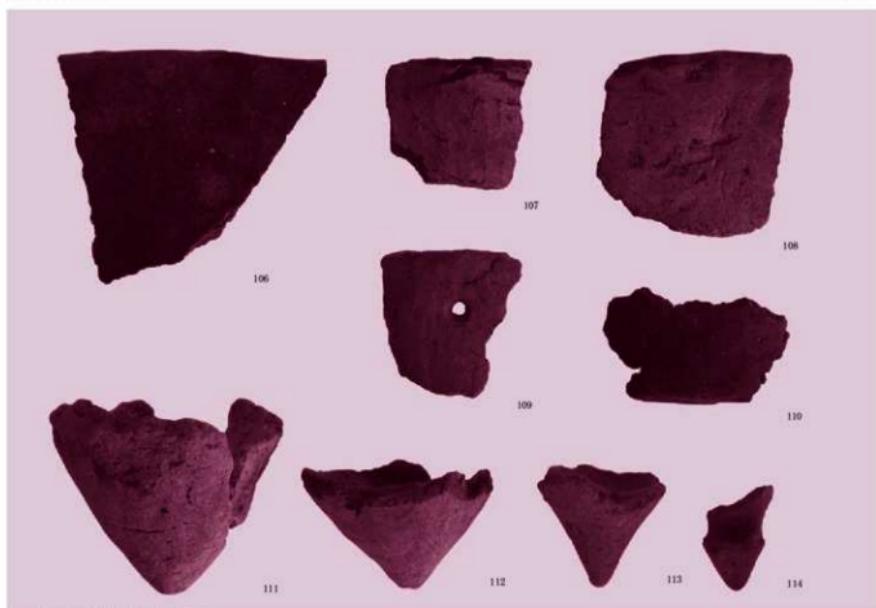
2. 繩文土器（第II群第4類）



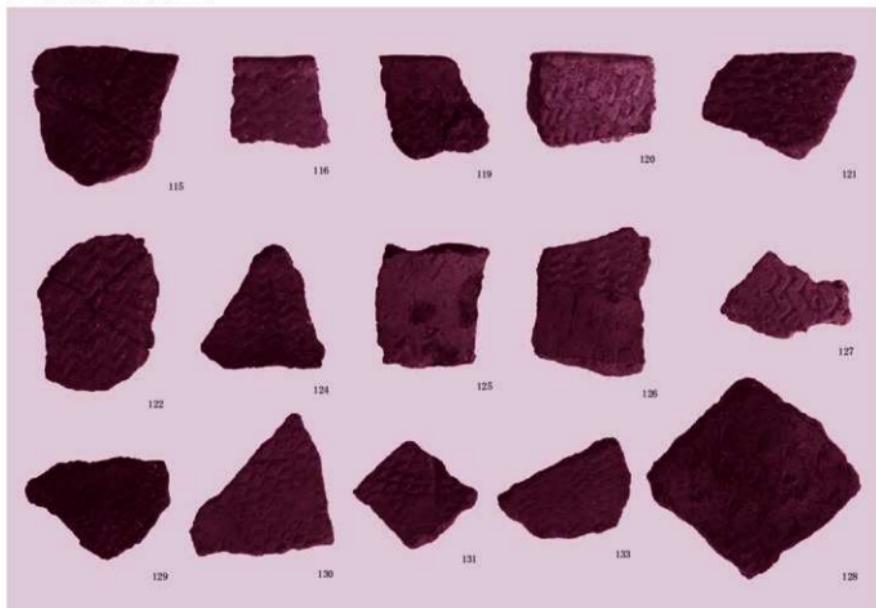
1. 繩文土器（第II群第5～7類）



2. 繩文土器（第II類第8類）



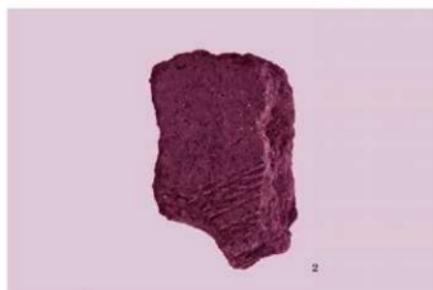
1. 繩文土器（第II群第9類）



2. 繩文土器（第III群）



1. 旧石器時代石器



2. 土偶①



1 (頭上部断面)



1 (頭下部断面)

3. 土偶②



5. 石器

## 報告書抄録

ふりがな	うちこしだいせき(4)							
書名	打越岱遺跡(4)							
副書名	上水道加圧ポンプ場の建設に伴う埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ名	袖ヶ浦市埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第29集							
編著者名	大河原 務							
編集機関	袖ヶ浦市教育委員会							
所在地	〒299-0292 千葉県袖ヶ浦市坂戸市場1番地1					TEL 0438-62-2111		
発行年月日	2018年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 m <sup>2</sup>	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
うちこしだいせき 打越岱遺跡(4)	千葉県袖ヶ浦市 上泉字打越1,270番地7	12229	S0011	35° 41' 40"	140° 04' 72"	20140421 ～ 20140602	630	記録保存 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
打越岱遺跡	集落	旧石器時代 縄文時代	縄文時代柱穴14基、 竪穴2基、土坑16基	旧石器時代石器、 縄文時代土器・石器	調査区全域に縄文時代早期の遺物包含層が確認された。			
要約	調査区南部からは竪穴2基、北部からは柱穴14基をはじめとした多数の遺構が検出された。また、調査区全域から縄文時代早期中葉沈線文期の土器が多数出土し、同時期の土偶がおぼて完形な状態で出土した。							

2018年3月21日 印刷

2018年3月29日 発行

袖ヶ浦市埋蔵文化財発掘調査報告書第29集

千葉県袖ヶ浦市

## 打越岱遺跡(4)

—上水道加圧ポンプ場の建設に伴う埋蔵文化財調査報告書—

発行 袖ヶ浦市教育委員会

千葉県袖ヶ浦市坂戸市場1番地1

電話 0438-62-2111

印刷 ワタナベメディアプロダクツ株式会社

千葉県木更津市潮見4丁目14番4号

電話 0438-36-5361